

令和5年度

市民まちづくり研究員 研究報告書



『福岡の心地よい空間づくり』

～食や景観から生まれるにぎわいとやすらぎ～

令和6年3月

公益財団法人 福岡アジア都市研究所

「福岡の心地よい空間づくり」

～食や景観から生まれるにぎわいとやすらぎ～

令和5年度 市民まちづくり研究員

今村 友里乃 桑原 ナミ 松尾 孝司

はしがき

福岡アジア都市研究所の市民まちづくり研究員制度は、「福岡市または福岡都市圏のまちづくりへの認識を深め、地域のリーダーとして活躍する市民の育成に資する」ことを目的に平成12年に市民研究員制度としてスタートした。途中1回の休催を経て、第19回から市民まちづくり研究員制度に改称して再スタートし、令和5年度で第23回目の実施となったのである。

毎年、テーマを設けて福岡市またはその近郊に住むもしくは働く方々を対象に広く募集し、5名前後の市民まちづくり研究員を採択してきた。今年度は「福岡の心地よい空間づくり～食や景観から生まれるにぎわいとやすらぎ～」をテーマに、多数の応募者から4名の方を選考して市民まちづくり研究員として委嘱した。

研究員の皆さんが、約9か月にわたり調査研究と発表討論を重ね、その成果をこの度研究論文または研究報告としてまとめあげた。

コロナ禍が落ち着き日常生活が徐々に戻りつつある中、研究員の皆さんが多忙な本業・本務の傍ら、毎月の研究会に積極的に参加し、研究内容を報告しあい、共通の目標に向かって切磋琢磨してきた。その成果と経験を各自の仕事や生活に活かしつつ、福岡のまちづくりの担い手としていっそう活躍されることを期待している。

令和6年3月

福岡アジア都市研究所

市民まちづくり研究員 研究報告書

目次

1.	にぎわいとやすらぎをもたらすウォーターフロント地区の開発 ...	1~14
	今村 友里乃	
2.	食の多様性に関する研究調査と食のブランド化について ...	15~36
	桑原 ナミ	
3.	町づくり どげんすると 博多の山笠・暮らし文化で ...	37~54
	生き生きとした高齢化社会に、せないかんやろうもん	
	松尾 孝司	
●	市民まちづくり研究員受入事業 令和5年度のあゆみ ...	55~59

にぎわいとやすらぎをもたらす ウォーターフロント地区の開発

令和5年度市民まちづくり研究員 今村 友里乃

はじめに

今回のテーマを設定した背景について、大きく3つの要因がある。

1つ目は、マリンメッセやサンパレスなどにコンサートやイベントで訪れる機会はあるけれど、それ以外の目的でウォーターフロント地区に訪れる機会がほとんどないことである。ウォーターフロント地区はコンベンション施設以外にもベイサイドプレイスやみなと温泉波葉の湯、博多ポートタワーなどがある。それにも関わらず、それらの施設に訪れる人は多いとは言えない。私自身、この研究を行う前はそれらの施設に訪れたことがなく、私の周りの友人などでもウォーターフロント地区にコンサートやイベント以外で訪れている人はあまり多くない。また、コンサートや展示会でその地区に訪れた際にも、それらの施設を利用することが今までなかった。そのため、コンサートや展示会でウォーターフロント地区に訪れた際にどのような工夫をしたら、コンベンション施設以外の場所にも足を運ぶようになるかを考えたいと思った。また、私と同年代の20代～30代の年代がウォーターフロント地区に行くようにするためにはどのような取り組みを行ったら良いかを考える。

2つ目は、海外や国内のウォーターフロント地区のようなにぎわいを福岡でも創出したいと考えたことである。私は学生時代に行ったシアトルのウォーターフロント地区は、地域住民や観光客が訪れるような市場があり、市場では楽器の演奏を行っている人がいたりその周りで演奏を聴いている人が多くいたりしてにぎわいのある場所であった。福岡でもそのようなにぎわいのある場所を生み出すことはできないのかと思った。

3つ目は、福岡市がウォーターフロント地区の再開発に取り組んでいることである。福岡市では博多コネクティッドや天神ビックバンなど多くの再開発の取り組みを行っている。その中で、ウォーターフロント地区も様々な取り組みを行い、よりにぎわいのある地区にしようとしている。そのようなこれから変革を遂げていくであろう場所を調べたいと興味を持った。

1 ウォーターフロント地区の変革

(1) ウォーターフロント地区開発

ウォーターフロント地区に関して、1980年代後半にも開発構想がなされている。その時代にウォーターフロントの課題として以下5つが挙げられている。

- ①アジアに目を向けた国際交流拠点の形成をめざす
- ②国際化・情報化に対応した新たな都心機能を導入する
- ③商業・業務・文化の都心機能として拡大が見込まれる天神の受け皿としての役割の要請
- ④市民にゆとりとるおいのある文化空間、水に親しめる空間形成
- ⑤物流システムや情報システムの高度化・近代化や施設の建替え等物流の再編整備の要請

福岡市は、これらの課題を解決するために、“海に開かれたアジア・九州のふれあい拠点づくり”を開発目標に掲げ、この実現のために以下3つの柱を設定した。

- ①国際交流拠点づくり
 - 会議・見本市・催し物等のコンベンションの誘致、開催
- ②新しい都心部の拠点づくり
 - 国際化・情報化・経済のソフト化などの新たな展開に対応できる都心機能の強化と魅力的な空間形成
- ③親水ふれあい拠点づくり
 - 市民の生活や意識の多様化対応したレクリエーション機能や親水機能を備えた生活・文化空間を創出するなど、海の自然や文化とふれあい、にぎわいのある楽しい快適な親水ふれあい拠点づくり

中央ふ頭・博多ふ頭エリアに関しては、①国際交流拠点づくりに焦点を当てた形ですすめられた。

表1 導入機能配置一覧の概要

	地区別開発の方向	導入施設例
中央ふ頭	○国際交流拠点として位置付ける ・港湾物流機能の再編成をめざし、倉庫、事務所などの高度化を計画 ・大型旅客船・フェリーターミナルゾーン、コンベンションゾーンの形成をめざす	・高度化物流施設 ・港湾中枢業務施設 ・大規模国際展示場 ・国際会議場、国際ホテル ・大型旅客船・フェリーターミナル ・親水緑地、駐車場
博多ふ頭	○市民の親水ふれあい拠点として位置付ける。 ・小型旅客船を中心としたターミナルに再整備するとともに、中央ふ頭と連携し、海に集い、楽しみ、遊べる、新しい生活文化をつくる界隈の形成を目指す	・小型旅客船ターミナル ・まつり広場 ・レストラン、ショップ ・文化施設、遊歩道 ・親水緑地、駐車場

出典：都心部ウォーターフロント開発構想を基に筆者作成

中央ふ頭エリアに関しては、大規模国際展示場として、マリンメッセ福岡の建設などがされている。

また、博多ふ頭エリアに関しては、レストラン・ショップとして、ベイサイドプレイス博多が作られた。マリンメッセ福岡に関しては建てられた後から今日まで、非常に高い稼働率で利用されている。その一方、1991（平成3）年にオープンしたベイサイドプレイス博多に関しては、オープン当初年間来場者数400万人超の市内有数の集客施設であった。

以上が福岡市の開発構想である。1980年代当時のウォーターフロント地区開発に関しては当初の想定通りの開発を行っているとは筆者は考える。しかしながら、現状ベイサイドプレイス博多に関してはオープン当初より来客数が減少している。その要因として交通の便が悪い点があると考え。ウォーターフロント地区までの交通手段として車とバスが上げられる。徒歩で行くとなると博多から約35分、天神から約25分かかる。バスの本数も決して多くはない状況のため、気軽に訪れる場所ではなくなっていったと考える。

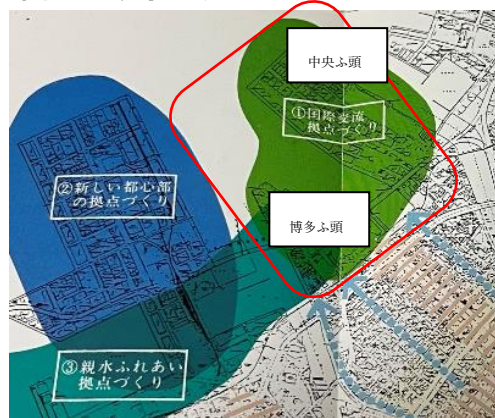
また、1990年代後半以降から現在まで、博多駅周辺の商業施設のオープンやキャナルシティのオープンなどウォーターフロント地区に行くより気軽に行きやすい商業施設が生まれたのもベイサイドプレイス博多に訪れる人が減少した要因だと考える。

そのような状況を踏まえて、現在再整備計画の立てられているウォーターフロントネクストはどのような取り組みを行っていくのだろうか。

（2）ウォーターフロントネクスト事業について

ウォーターフロントネクスト地区は、国際会議やイベントなどのMICE施設が集積するとともに、クルーズ船や国際定期旅客船が寄港する国内有数の国際交流拠点になっている。この特性を活かし、感染症対応シティに相応しいまちづくりなどの新しい視点も加え、地区のエントランスゾーンに相応しい交流空間や交通広場の確保、国際競争力のある「オール・イン・ワン」のMICE拠点の形成とあわせ、海辺を活かした連続的なにぎわいや憩い空間の創出など、市民や来街者が楽しめる魅力あるまちづくりに取り組むための事業がウォーターフロントネクスト事業である。福岡市のウォーターフロント地区再整備事業の概要によると、まずは概ね10年間で第1ステージの再整備を進め、新たな経済波及効果（年間2,000億円程度）や雇用機会の創出などを図っていくとともに、市民や国内外からの来訪者の人たちが楽しめる新たな都心の拠点を形成していく計画がされる予定である。

図1…ウォーターフロント地区



出典：都心部ウォーターフロント開発構想⁽¹⁾

まず、第1ステージでは MICE・クルーズ・にぎわいの3つ観点で概ね10年かけて再開発を行う。MICE に関しては、MICE 施設やホテル・にぎわい施設をコンパクトに配置し、オールインワンで行える MICE 開催環境を整備する予定である。クルーズに関しては、クルーズ機能の強化による供給力の向上と多様なクルーズ船が寄港し、国内外の人々が交流し賑わう「海のゲートウェイ」を創出する。にぎわいに関しては、MICE やクルーズなどの集客施設と一体的ににぎわいを創出し、国内外の人々の新たな交流の機会を提供するような場所をすることを目標に掲げている。また、市民や来街者も楽しめるような海辺沿いのにぎわいや憩いの空間を創出するような開発を市は予定している。

図2…ウォーターフロント地区の位置づけ



出典：福岡市 HP (2)

福岡市は現状、ウォーターフロント地区における MICE、港湾、交通関連の課題として下記10点を挙げている。

【MICE 関連】

①既存コンベンション施設の低い稼働率とお断りによる経済的な機会損失

- ・会議場、展示会、コンサート等様々なイベントに利用されており、稼働率 70%を超える。
- ・マリンメッセ福岡や福岡国際センターなど展示施設の稼働率は、80%超えで、年間50件程度利用をお断りしており、経済的な機会損失が生じている。
- ・利用者は国内リピーターが中心で、新規催事の受け入れが困難な状況。

②ゾーン内コンベンション施設の一体性・連続性の不足

- ・国内外の MICE 先進都市では、「オール・イン・ワン」を実現しているが、コンベンションゾーンにおいては、すでにコンベンション施設が集積しているものの、宿泊やにぎわい機能が不足しており、施設の一体性・連続性が確保されていない。
- ・国際的な知名度の向上や誘致力の向上。

③市民が気軽に楽しめる海辺空間やにぎわいの不足

- ・飲食機能やゾーン内の回遊性などにぎわいが不足しており、市民やコンベンション利用者にとって利便性が不足している。

- ・天神や博多駅に近いにも関わらず、市民にとって身近な場所となっていない。
- ・コンベンションやイベント開催時と平常時のにぎわいに差がある。

④中央ふ頭と博多ふ頭の集客交流施設との連続性や連携の不足

- ・約 500m程ある中央ふ頭のマリンメッセ福岡付近から博多ふ頭のベイサイドプレイスまでの間は、護岸から修景されたプロムナードであるが、にぎわいの連続性や連携が不十分であり、日常的な回遊が見られない。

⑤ウォーターフロント地区の顔となるようなシンボル性が乏しい

- ・コンベンション施設の集積やクルーズ船の寄港の拡大などにより、多くの来街者が訪れるものの、地区の顔となるような空間や施設がない。

【港湾関連】

⑥クルーズ需要の拡大に対し、受入環境が不十分

- ・中央ふ頭には、大型クルーズ客船が着岸できる岸壁が1つしかないため、大型クルーズ客船が2隻同時に着岸できない。
- ・博多港には、クルーズ船用のターミナル施設がないため、クルーズ船の船内レストランなどのスペースを活用して入国審査を行う場合もあり、また、クルーズの着岸場所には、夏の日差しや風雨を遮ることができる屋根付きの待機スペースもない。

⑦人流及び物流の両面で重要な拠点であるが、各機能が混在

- ・天神や博多駅といった都心に近くアクセスが便利な中央・博多ふ頭においては、国際・国内の様々な定期航路等が就航しており、人だけではなく貨物も輸送していることから、人流機能と物流機能の調和が必要。
- ・中央ふ頭では施設の老朽化が進み、更新時期を迎える施設もある。

【交通関連】

⑧公共交通によるアクセス性の不足

- ・都心部（天神・渡辺通地区、博多駅周辺地区）を結ぶバス路線や乗り場が分かりにくい状況。
- ・イベント時には、公共交通アクセスの定時性・速達性が低下し、輸送力が低下している。

⑨地区内の交通混雑


- ・イベント時を中心に、周辺道路において著しい交通混雑が見受けられる。

⑩拠点間の回遊環境の課題

- ・天神・渡辺通、博多駅周辺とウォーターフロント地区を有機的につなぎ、回遊性を向上させる上では、案内サイン、花やみどりの演出など、安心して楽しく歩ける仕掛けが不足している。

以上、福岡市がウォーターフロント地区再整備の方向性の中で挙げた、ウォーターフロント地区の現状と課題を見たうえで実際にウォーターフロント地区（中央ふ頭・博多ふ頭）のにぎわい状況の調査を行った。

表2 ウォーターフロント地区の利用状況

	中央ふ頭周辺	博多ふ頭周辺	中央ふ頭～博多ふ頭
① 休日 イベント時			
② 休日 イベントがない日			

出典：著者作成（表内の写真はすべて著者撮影）

①の休日イベント時に関しては、マリンメッセにてコンサートが行われていた日に撮影を行った。中央ふ頭エリア（マリンメッセ周辺）には多くの人が並んでいたりと、木々の軒下の石段に座ったり大変多くの人で賑わっていた。中央ふ頭から博多ふ頭に向かうところにも多くの人が座っていた。イベントに連動して何か別の催しものも行っていた訳ではないが、博多ふ頭エリア（ベイサイドプレイス博多）周辺も多くの人が歩いていた。②のイベントがない日に関しては、中央ふ頭エリア・中央ふ頭～博多ふ頭間・博多ふ頭エリアすべてにおいて歩いている人や座っている人はほとんど見られなかった。ベイサイドプレイス博多の施設内の飲食店などには多くの人がおり、子連れの家族が特に多い印象を受けた。①の時は多くの人で賑わっていたが、ほとんどの人がコンサートに来る目的でここにいるだけの状況であったため、本当の意味でのにぎわいとやすらぎを生み出していない状況だと思う。ウォーターフロントネクスト事業でも掲げられている、「海の自然や文化とふれあい、にぎわいのある楽しい快適な親水ふれあい拠点づくり」を生み出すにはどのような取り組みを行っていけばよいのだろうか。

(2) ベイサイドプレイス博多での取り組み

ウォーターフロント地区にある商業施設“ベイサイドプレイス博多”では人々に来てもらうために様々なイベントを企画している。2022（令和 4）年の1年間でどのようなイベントがあったのか主なイベントを下記表にまとめた。

図3 ベイサイドプレイス博多イベント一覧

月	主なイベント
1	祝・成人・ふるまいぜんざい
2	—
3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2ND「LIVE PAINTING」 in ベイサイドプレイス博多 ・ 春休み♪ちんどん屋【体験】 in ベイサイド
4	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第13回さくらウォーク from ベイサイド ・ 和太鼓フェス 2022 in ベイサイド ・ IDOL BASTAR LIVE! ・ G.W ベイサイドステージ 2022
5	<ul style="list-style-type: none"> ・ ベイサイドプレイス博多・アイドル演舞台 2022 ・ BAYSIDE WEEKEND HULA ・ 東フェス 2022 ・ ミルキーウェイに「トウイ」がやってくる!
6	<ul style="list-style-type: none"> ・ アジアの初恋～コリアン BBQ ビアガーデン ・ セタ～短冊に願いを込めて～
7	<ul style="list-style-type: none"> ・ ベイサイドストピストリートライブ ・ ベイサイドサマーステージ 2022 ・ 光田健一ピアノうた♪mini CONCERT ・ ベイサイドストピ『テクル ミニ LIVE』
8	<ul style="list-style-type: none"> ・ ベイサイドストピ『ぼこあぼこ Summer Live』 ・ ベイサイドストピ『あやたんぬーぷちコンサート』 ・ ベイサイドストピ『福岡第一高校音楽家クラシック演奏部』演奏会 ・ ベイサイドストピ『ピアノデュオ (Duo les portes)』
9	<ul style="list-style-type: none"> ・ BAYSIDE FESTIVAL 2022 ・ 肉博 (にくぱく) 2022 ・ アクアリウム裏に巨大アート!! 奥田和久ライブペインティング
10	<ul style="list-style-type: none"> ・ ベイサイドにカメを描こう! 参加型アートイベント ・ 秋のベイサイドウォーキング! 博多のまちを歩こう ・ Festa do Brasil 福岡 2022 ・ ハワイアンフェスティバル福岡 2022 ・ すぎもりえいとく氏アートイベント「第3回ライブペイント」 ・ ミルキーウェイ「HALLOWEEN PARADE～2022」
11	<ul style="list-style-type: none"> ・ ベイサイド冬の風物詩～かき小屋 in ベイサイド 2022～2023 ・ 海辺の発表会 2022 ・ ベイサイドイルミネーション 2022～2023
12	<ul style="list-style-type: none"> ・ ミルキーウェイ「リトルパティシエ 2022～Xmas スイーツを作ろう～」 ・ ミルキーウェイ「HAPPY CHRISTMAS 2022」

出典：ベイサイドプレイス博多 HP を基に筆者作成

2 にぎわいとやすらぎとは

(1) にぎわいとやすらぎの定義

まず、にぎわいとやすらぎのある空間とは、以下の要素がある状態と定義したい。

【にぎわい要素】人がたくさん集まっており活気がある状態

【やすらぎ要素】心が満ち足りている状態

新明解国語辞典で「にぎわう」は、①人・物がたくさん出そろって、活気がある。②商売・取引が盛んで繁盛する。という意味が書かれている。また、「やすらぎ」は、自分を取り巻く環境に何の不安も無く、毎日の生活を満ち足りたものに思う気持ちと書かれている。

(2) にぎわいとやすらぎの空間の必要性

【にぎわい要素】と【やすらぎ要素】を持った空間が福岡にはあるだろうか。天神や博多は人の多さはあるけれど、これらの要素を持った場所ではないと考える。また、人々同士のつながりが薄くなっている今日であるからこそ、この【にぎわい要素】と【やすらぎ要素】を持つような空間を生み出すことは必要であると思う。

(3) にぎわいとやすらぎの空間の事例

ここで、国内・海外でにぎわいとやすらぎの空間を生み出している事例に触れたい。

①海外での事例

(ア) パイクプレイス (アメリカ・シアトル)

○シアトルで人気の観光地。魚介類や果物、手作りの工芸品やお土産なども売っている市場。地元の人々と観光客が交じり合う場所。

○投げ売りをする魚屋や、スターバックス1号店などもあり多くの人でにぎわう。

⇒多くの人でにぎわい活気がある場所

【にぎわい要素】

○定期的にイベントを行っている。

例えば、ストリートパフォーマンスや音楽ライブ、フラワーフェスティバルなどがある。

⇒人が集まるような催し物を行うことでにぎわいが生まれる場所

【にぎわい要素】



写真1…PUBLIC MARKET

出典：著者撮影

(イ) マリーナベイサンズ・ガーデンズバイザベイ (シンガポール)

- マリーナベイサンズでは光と水のシンフォニーが毎晩行われている。また、ガーデンズバイザベイでも夜のライトアップショーが行われている。観光客でにぎわっている。
- ⇒多くの人が集まり盛大なライトアップショーが行われて活気であふれている

【にぎわい要素】



写真 2…ライトアップショー
出典：著者撮影

(ウ) プロムナードデザングレ (フランス・ニース)

- 地中海に沿って位置する有名な海外遊歩道。
- 西海岸の穏やかな海をゆっくりと眺めて歩ける場所。また、多くの人々が海岸沿いで寝転がっていたりゆったりとした空間が流れている。
- ⇒多くの人々がのんびりと過ごせるような場所

【やすらぎ要素】



写真 3…ニースの海岸
出典：著者撮影

②国内での事例

(ア) 神戸ウォーターフロント

- 神戸を象徴するようなオブジェや神戸ポートタワー、スターバックスなどがある。
- ⇒オブジェに多くの人々が並んで写真を撮っていた【にぎわい要素】
- ウォーターフロントアートプロジェクトや謎解きゲーム、クリスマスマーケットなど多くのイベントを行っている。
- ⇒多くの人々がイベントに集まり活気のある場所である【にぎわい要素】



写真 4…神戸のオブジェ
出典：著者撮影

(イ) 桜井二見ヶ浦 (福岡県・糸島市)

- 夏至の頃にしか見ることのできない、岩と岩の間に沈む夕日が見られる。
- 夕日を見るとこころ穏やかな気持ちになり、心が満たされるような状況になる。
- ⇒【やすらぎ要素】
- 多くの人々がこの場所で夕日を見るために訪れる
- ⇒活気あふれる場所【にぎわい要素】



写真 5…桜井二見ヶ浦
出典：糸島観光サイトつなぐいとしま⁽³⁾

3 にぎわいとやすらぎの空間をウォーターフロント地区で実現させるには

(1) 誰のための取り組みなのか

にぎわいとやすらぎの空間を生み出すのは誰のための取り組みだろうか。

この研究では 20 代～30 代くらいの地元の人々に焦点を当てたいと思う。冒頭で書いたように、私をはじめ、20 代～30 代の人々はコンサートなどでウォーターフロント地区を訪れる機会はあるけれど、それ以外の目的で来る機会が中々ない。この場所をコンサート会場に行く目的だけでなく、違う目的で来てもらうきっかけを作りたいと考えている。

(2) にぎわいとやすらぎの空間とは

にぎわいとやすらぎの空間とはどのようなものだろうか。私が考えるにぎわいとやすらぎの空間は下記のような空間である。

- ①ストリートミュージックなど、音楽に惹かれて人々が集まりその音楽を楽しむような空間⇒【にぎわいの要素】
- ②野菜や魚など特産品を売るようなマルシェがあり、地域の人や観光客でにぎわうような空間⇒【にぎわいの要素】
- ③水と音楽のショーやライトアップと絡めたイベントを生み出す空間⇒【にぎわいの要素】
- ④訪れた人が海辺で横になってゆっくりとできるような空間⇒【やすらぎの要素】
- ⑤植物や自然の夕日・朝日などを見ることで心が満たされるような空間⇒【やすらぎの空間】

(3) 理想の姿の実現に向けた施策

①中央ふ頭・博多ふ頭に時間帯に応じて複数か所の会場を設け、公募で募った出演者が、審査を経て演奏できるようにする。

(例：みなとみらい STREET MUSIC) また、演奏を行う場所には椅子の設置や芝生の整備を行うことで、座って演奏を聴くことができるような環境整備を行うことも必要である。また、MARINE & WALK YOKOHAMA の海沿いのエリアでは DJ によるライブを開催している。



写真 6…みなとみらい STREET MUSIC
出典：(社) 横浜みなとみらい 2 1 ⁽⁴⁾

夕暮れ時には夕日を眺めながらゆったりとした時間を過ごせるような空間を生み出している。



写真 7…DJ イベント

出典：MARINE&WALK YOKOHAMA より⁽⁵⁾

②地元の野菜や海鮮の販売や、障がい者支援の一環として、福祉施設で育った農産物や加工品などの販売などを行う。地域の方と観光客の方とのつながりを生み出せるような場所にしたいと考えている。JR 博多駅前広場で開催されている“博多 FARMERS’ MARKET”は九州の生産者と博多を訪れる観光客とのつながりを生み出している良い例だと考える。また、時間帯を分けて、朝行うマルシェと夕方から行うサンセットマルシェを開催する。朝と夕方で開催場所を分けて朝は中央ふ頭から博多ふ頭間のエリア、夕方からは夕日の見える博多ふ頭緑地サンセットパークでの開催などができたら良いと考える。(例：南城市の浜辺サンセットマルシェ)



写真 8…サンセットマルシェ

出典：南城市観光協会より⁽⁶⁾

③シンガポールのように海と光の融合したショーを土日限定で行う。

④海沿いの場所に芝生を敷くことで、寝転がることのできる空間を形成する。また、緑や植物であふれるような場所にできたらと考える。福岡市では一人一花運動が実施されているため、その事業に絡めた形で実現ができると思っている。



写真 9…一人一花運動

出典：筆者撮影

(4) 天神・博多～ウォーターフロント地区まで歩きたくなる仕掛け

ウォーターフロント地区の最大の課題は天神・博多～ウォーターフロント地区まで歩く距離だと考える。博多駅から徒歩約 35 分、天神からだ徒歩約 25 分程度かかる。この距離の問題を解決することが重要であると考え。ではどのようにしたら少しでも多くの方がウォーターフロント地区まで歩きたくなると思えるだろうか。福岡市で実際に行われて

いる事業や他地域でされている事案を基に例を挙げる。

①歩きたくなるような足跡

福岡市は自然と楽しく体を動かしたくなる仕組みや仕掛けのある街を目指して“Fitness City プロジェクト”を行っている。

その一環として昨年の7月より博多駅～祇園駅をつなぐ大博通の西側歩道において、カラフルな足跡を路面に表示している。

実際に私も歩いてみたが、多くの人はその足跡に目を留めていなかったため、多くの人が気づくような工夫が必要だと感じた。例えば歩きながら謎解きができるような路面表示を作成し、楽しみながら歩く取り組みができれば今より多くの人が歩きたいと思うようになるのではないかと考える。また、博多駅～祇園駅だけでなく博多駅・天神駅～福岡サンパレスホテル&ホールまで路面表示を行いたいと考える。



写真 10…足跡の写真

出典：著者撮影

②路面アート

雨の日だけに描かれるアートやマリメッセやサンパレス福岡ホテル&ホールで開催されているイベントとコラボした路面アートなどがあれば歩く人が増えると考えます。実際に横浜にある商業施設“MARINE & WALK YOKOHAMA”では、雨の日だけ浮かび上“Rainworks”という取り組みを実施している。これ雨の日にならないとどこに浮かび上がるか分からない組みになっているため歩く取り組みには適している。



写真 11…路面アート

出典：MARINE&WALK YOKOHAMA より⁽⁷⁾

③オリジナルのお弁当作り

博多駅・天神駅～ウォーターフロント地区まで歩く道中、多くの飲食店が周辺にある。その為、何店舗かの方に協力をしていただき、自分だけのオリジナルお弁当を作るイベントができればと考える。実際に鎌倉・由比ガ浜エリアで“OBENTO プロジェクト”というイベントが実施されている。このプロジェクトは、空のお弁当に由比ガ浜～長谷エリアをまち歩きし、お店の方と会話をしながら、好きな料理を自由に詰めて、世界に1つだけの



写真 12…OBENTO プロジェクト

出典：ハロー！RENOVATION HP より⁽⁸⁾

お弁当を完成させるプロジェクトである。最終的にウォーターフロント地区のベンチなどで食べられるような仕組みにしたいと思う。まち歩きを行うことによって、地域のお店にも貢献できるような取り組みが実現できると考える。

おわりに

私はこの研究を行うにあたって何度かウォーターフロント地区を散策したり、博多駅～ウォーターフロント地区まで徒歩で行ったりした。この研究を行うまではウォーターフロント地区の魅力をほとんど知らなかった。実際に訪れてみると、私が想像していた以上に魅力的なところが数多く存在した。例えば、博多ベイサイドプレイスには有名なミシュランのレストランが入っており、また糸島まで行かずとも楽しめる牡蠣小屋がある。博多ポートタワーは無料で登ることができ、福岡の景色を楽しむことができる。また、博多ポートタワーの奥にはゆったりと海を眺められる博多埠頭緑地サンセットパークがある。このような魅力があることを私は知らなかった。おそらく私と同年代の多くの人がこの魅力には気づいていないと考える。ウォーターフロント地区までに行くには交通の便が悪いことが一番の課題だと考える。しかしながら、歩いても行きたくなるような仕掛けづくりを行うことで人々が行ってみたいと感じるのではないか。博多・天神エリアにはないもの、例えば海辺を活かした取り組みを行うことが重要になってくると思う。また、博多・天神エリアからでも行きやすくする交通網の改善や、長時間でも歩きたいと思わせる道中の施策も必要である。現在取り組みがされているウォーターフロントネクスト事業に歩きたくなる仕掛けを組み合わせることで、ウォーターフロント地区が今以上に魅力的で人々を再び引き付けるような場所になることを願っている。

<参考文献>

- (1) 『都心部ウォーターフロント開発構想』1988, 12
- (2) 福岡市.” ウォーターフロント地区再整備事業の概要”
https://www.city.fukuoka.lg.jp/data/open/cnt/3/67322/1/wf_sounding_jigyougaiyou.pdf?20190225143454, (参照 2024-03-01)
- (3) つなぐいとしま.” 桜井二見ヶ浦”
https://www.city.fukuoka.lg.jp/data/open/cnt/3/67322/1/wf_sounding_jigyougaiyou.pdf?20190225143454, (参照 2024-02-24)
- (4) みなとみらい 21.” 音楽のあふれる街みなとみらいへ！街中がステージになる「みなとみらい STREET MUSIC」” 2022-08-08. <https://minatomirai21.com/special/22448>, (参照 2024-03-01)
- (5) MARINE & WALK YOKOHAMA. facebook, 2018-05-27. <https://m.facebook.com/marineandwalk>, (参照 2024-02-20)
- (6) 南城市観光協会. facebook, 2022-06-26. <https://m.facebook.com/okinawa.nanjo>. (参照 2024-02-20)
- (7) MARINE & WALK YOKOHAMA. facebook, 2018-05-31. <https://m.facebook.com/marineandwalk>, (参照 2024-02-20)
- (8) ハロー！RENOVATION.” 鎌倉「まち歩き×オリジナルお弁当づくり」で商店街の魅力に触れよう OBENTO プロジェクトキックオフ！” 2022-01-15.
<https://hellorenovation.jp/news/detail/13201?fpc=6.5.365.58c00eb650666f7Z.1740737143000>, (参照 2024-02-20)

食の多様性に関する研究調査と食のブランド化について

令和5年度市民まちづくり研究員 桑原 ナミ

はじめに

今回の市民まちづくり研究員のテーマ「食や景観から生まれるにぎわいとやすらぎ」を見た時に、私が食の仕事をする中で、以前出会った出来事をふと思い出した。

それは約7年前、農家民泊のモニターとして福岡在住の留学生のコーディネーターを担当した時のことである。事前のヒアリングの際に「インドネシアから来ている留学生がハラールなので、食事のご準備に注意してください」と留学生の紹介をお願いした大学事務局から連絡があり、ハラールとは何？と疑問に思ったのが、私にとっての食の多様性との初めての出会いだった。

宿泊する農家民泊のお母さんには、ハラールの学生がいる事を伝え、「アルコール」「豚肉」など肉類は食べられない事を伝えていたが、1つ伝えるのを忘れていた事があった。それは「調味料」である。調味料にもアルコールや肉のエキスなどが含まれているものがあるという点。当日気づき、お母さんに確認したところ、煮物などに醤油やみりんを使っていたことがわかり、慌てて酒や醤油、みりんなどを使わない簡単なサラダなどをプラスしてもらい事なきを得たが、私自身が嫌いなものがなく、なんでも食べられるため、宗教上、また自身の信念や健康のためなどで制限され「食べられない物がある方がいる」ということを初めて知った貴重な経験だった。

福岡市はアジアの玄関口として全国、全世界で認知されているため、海外、とりわけアジアからの観光客が多い。

そこで今回のテーマである「食や景観から生まれるにぎわいとやすらぎ」の中で、食の選択はその方達の価値観や生き方そのものでもあり、その思想を尊重しつつ、福岡



写真1
農家民泊に参加した留学生
出典：筆者撮影（2017-11-19）



写真2
お母さんに教えてもらいながら料理をしている留学生
出典：筆者撮影(2017-11-18)



写真3
料理中のムスリムの留学生
出典：筆者撮影（2017-11-18）

へ訪れた皆さんにも、福岡の食を存分に楽しんでもらいたい思いから、福岡市内の飲食店の現状はどうか、そしてこれから先、食の多様性を飲食店に広げていくためにはどうすればよいのかを筆者なりに調査しまとめた。

アフターコロナでアジアからの観光客が増えてきているこのタイミングで、私が調査した内容が、今後、福岡市の食のブランド価値を高める一因になればと思う。

1. アジアからの観光客の推移

(1) 観光客の推移

2020（令和2）、2021（令和3）年は新型コロナウイルス感染症による移動制限などで海外からのインバウンド旅行客はかなり減ったものの、コロナ前の2019（令和元）年までの数値を見ると、右肩あがりに旅行者の数が増えている事が図1よりわかる。

図1 訪日外国人旅行者数

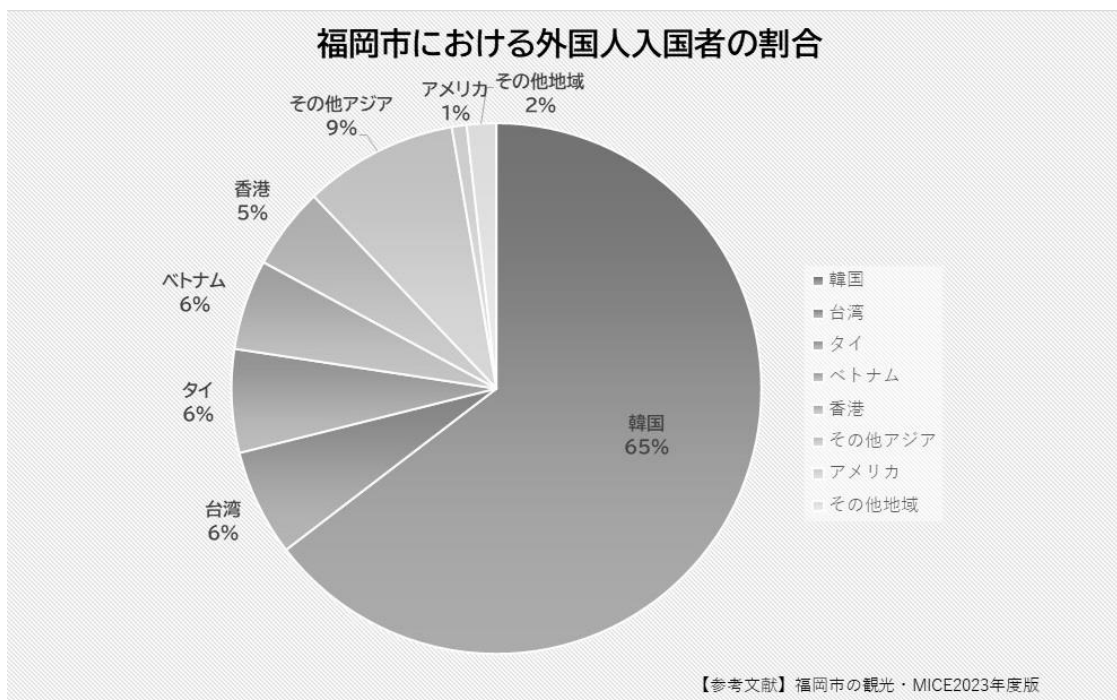


出典：日本政府観光局（JNTO）「訪日外客数」より筆者作成

<https://www.mlit.go.jp/kankocho/siryou/toukei/content/001609726.pdf>

[accessed 2024 Jan 17]

図2 福岡市における外国人入国者の割合



出典：福岡市の「観光・MICE2023 年度版」より筆者作成

<https://www.city.fukuoka.lg.jp/data/open/cnt/3/110090/1/kankoutoukei2023.pdf?20230526150122>

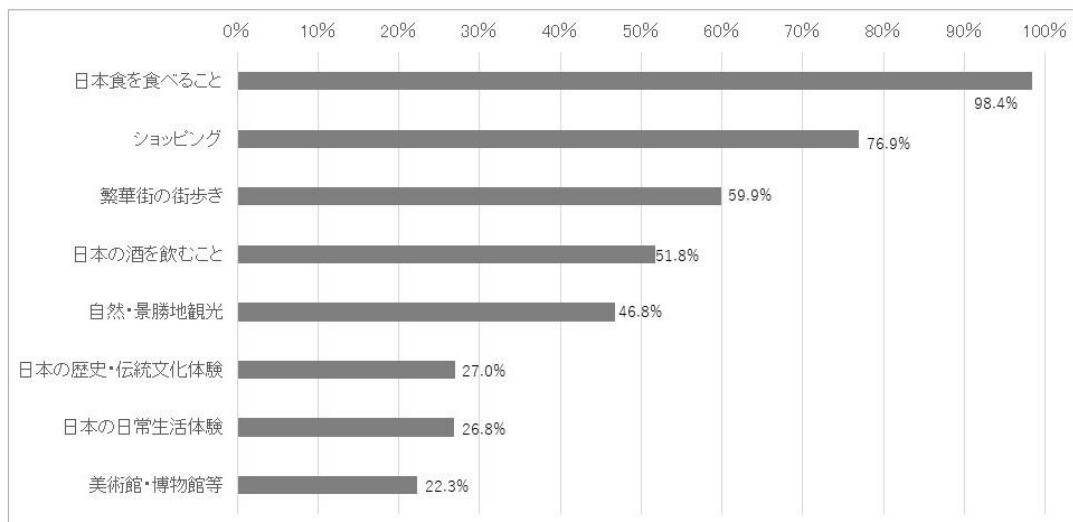
[accessed 2023 Oct 7]

また図2の福岡市を訪れる外国人入国者の割合をみると、韓国や台湾などアジア諸国が多い事がわかる。

(2) 観光客の観光の目的

観光庁が毎年発表している訪日外国人消費動向調査 2022（令和 4）年年次版を見てみると、訪日前に期待していたことを複数回答で尋ねたところ「日本食を食べること」が78.3%で最も多い。そして、日本滞在中にしたことでは、やはり「日本食を食べること」98.4%⁽¹⁾と来日外国人は、日本での食事を楽しみに来る方が圧倒的に多い事が図3からもわかる。この中の観光客にはベジタリアンやムスリム、ヴィーガンである方達も含まれると推定される。福岡市を訪れる観光客の中にも多様性の食を求める観光客が増える事が想定されるため、同様に多様性の食が求められている。また一昔前のような買い物のみが目的ではなく、その他に日本の歴史や伝統文化などの体験や日常生活体験など、日本ならではの体験などを楽しみに訪れる方が多い事もわかる。

図3 訪日外国人旅行者が日本滞在時にしたこと



※調査方法 全国25空海港で調査員によるタブレットによる聞き取り調査（全国籍・地域・複数回答）

出典：観光庁「訪日外国人の消費動向 2022 年年次報告書」より筆者作成

<https://www.mlit.go.jp/kankocho/siryou/toukei/content/001609726.pdf>

[accessed 2024 Jan 15]

2. 多様性の食とは？

では、実際、宗教や信条で食べられない物があるムスリムやベジタリアン、ヴィーガンの方は、どんなものが食べられないのか表にした。

表1 ムスリム・ベジタリアン・ヴィーガンの食材表

	豚	牛	鶏	魚介類	鱗のない魚介類	アルコール調味料	乳製品	卵	五葷（香味野菜）	はちみつ
ムスリム（イスラム教徒）	×	○ （と畜次第）	○ （と畜次第）	○	△	×	○	○	○	○
ヴィーガン	×	×	×	×	×	○	×	×	○	×
オリエンタルベジタリアン（台湾）	×	×	×	×	×	×	△	△	×	△

出典：フードダイバーシティハラールベジタリアンヴィーガン素食早見表を基に筆者作成

https://fooddiversity.today/article_61091.html/ [accessed 2023 Oct 7]

ムスリムの方が食べられる食事をハラールといい、ハラールは、アルコールや豚肉は食べられない。牛肉や鶏肉はと畜次第（イスラム法に則った処理）では食べられ、また魚介類や乳製品も大丈夫である。ただし、調理過程でまな板や包丁などの調理器具で豚肉やアルコールを扱っている場合も食べられない。厨房を別々に分けて調理できる店舗はなかなかないため、ハードルが少し高いように思える。

ヴィーガンやベジタリアンは、宗教とは違い、動物愛護の観点などから自身の信念で動物性食品や乳製品を食べない場合が多い。ベジタリアンの中でも台湾の方に多いオリエンタ

ルベジタリアンは、肉や魚介類は一切食べられない上、野菜の中でも五葷（ごくん）と言われるにおいが強い野菜、ニラ・ニンニク・ラッキョウ・玉ねぎ・ネギなども食べない。

実際にムスリムやオリエンタルベジタリアンの方達に①食べられない食べ物について②日本の飲食店に関してどのような事を求めているかの2点を軸にインタビューを実施した。

（1）オリエンタルベジタリアンの話^[注1]

台湾に住んでいる王梓媂（ワン ジ ユィ）さんにオンラインで食や日本へ旅行をした時の話を伺った。

王さん家族がオリエンタルベジタリアンである理由は、王さんの祖父が農業を営み、牛が農産物を運ぶ手伝いをしていた影響である。

友達と外食の際は、ベジタリアンでも食べられる料理があるパスタや火鍋などのお店を選ぶということだ。

王さんが4年前に友達と日本に旅行で来た際、外食できる店が分からず、コンビニで買ったお惣菜やパンなどを食べて過ごした。

東京オリンピックの開催前だったため、東京エリアは、まだそこまで多様性の飲食店に力を入れていなかった時期ではあるが、やはり、海外に旅行へきて、一番の楽しみ「食」を楽しむ事が出来なかった方がいるという事実は残念でならない。

ベジタリアン専門店ではなくても、台湾では、パスタや火鍋のお店では食べると話していた事からも、お店の看板や表示などに野菜の料理があるマークなど英語表記で分かりやすく表示されていれば、王さんも友達と一緒に入れたのではないかと推測される。

[注1]2023年10月27日インタビュー調査



写真4
台湾とオンラインでのインタビューの様子
出典：筆者撮影（2023-10-27）

（2）ムスリムの話^[注2]

① 福岡市東区箱崎のモスクにいた男性

ハラールのお店について問うと「福岡には2つしか本物のハラールのお店がない」という。彼はイスラム教徒の方がしているお店こそ正当なハラールのお店という認識で、日本人やその他の外国人が経営しているハラール対応のお店は、「どんな材料でどんな調理をしているか分からないため、怖くて入れない」と話していた。

[注2]2023年11月19日インタビュー調査

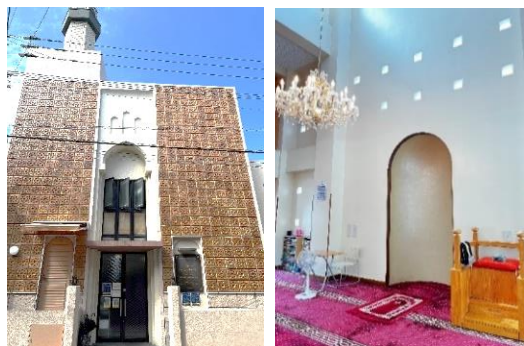


写真5 モスク外観 写真6 モスク内部
福岡市東区箱崎にある福岡モスク（福岡マシドアンヌールイスラミックセンター）
出典：筆者撮影（2023-11-19）

②ハラールレストラン「マルハバ・ハラールフード」店主ジャマルさん^[注3]

モスクから徒歩5分ほどにある「マルハバ・ハラールフード」。ジャマルさんが飲食店をするようになったきっかけは、「モスクでお祈りをした後に、食事ができる場所がなく、自分で作って身内と食べていたら、モスクでお祈りをした後のムスリムの方のたまり場になり、気づけばお店をするようになっていた」と話す。

ハラールは調理過程での制限が厳しく、日本では厨房問題が少し難しいように思えるため、その点をジャマルさんに聞くと、「母国ではないので、ハラール対応をしているお店の内容などを詳細に明かしていれば、ムスリムの方達がそれを納得した上で、お店に足を運ぶ方もいるだろう」と話していた。

[注3]2023年11月19日インタビュー調査



写真7
「マルハバ・ハラールフード」店舗
出典：筆者撮影（2023-11-19）



写真8 骨付き牛肉のピリヤニ
出典：筆者撮影（2023-11-19）

③日本に留学しているムスリムの学生や社会人のグループ^[注4]

彼らが言うには、イスラム教徒は信仰の度合いによって、食べられる物が違うと協調していた。みんな「お肉」は食べたいと口をそろえて話す。牛肉や鶏肉に関しては、表1で示していると畜肉を使っていない場合でも食べる事もある。本来は、同じ油で豚肉を調理しているお店の食べ物は食べられないが、日本では食べる場合もあると話していた。100%対応可能が難しい事がわかっているため、飲食店ごとの対応が求められていると感じた。ムスリムの方達は、全国各地にあるハラール対応飲食店の情報を常にリサーチして、周りの友達と共有している。福岡は、まだまだ飲食店の情報が入ってこないため、行けるお店は限られていると話していた。後日、福岡在住のムスリムの方に人気だという「極みや」へ行った。平日だったが、情報通り大行列だった。店員に話



写真9
パルコ地下1階にある極みやの行列
出典：筆者撮影（2024-01-17）

を伺うと、1日に最低でも1～2回はハラール肉の注文が入るといふことだ。福岡在住のムスリムの方には、このお店は安心して食べられるお店だと定着しているのだろう。

また彼らは「長年住んでいるムスリムの方と、観光で数日福岡に滞在する旅行客とでは、お店で食べるという行為が違ふ。ムスリムの料理というと、カレーやスパイス料理のイメージがとても強いが、インドネシアには、ミンゴレン（焼きそば）、メシゴレン（焼きめし）など日本にも似たような料理がある上、ピザ、パスタや焼き鳥なども具材によっては普通に食べられるので、もっと気軽に通えるお店が増えると嬉しい」と話していた。

彼らが活動しているグループでは、2024（令和6）年の秋に「インドネシア DAY」というイベントを天神中央公園で開催する。

事前にハラールメニューの基準を決めた上で、福岡市内の飲食店の皆さんに、それに対応したメニュー開発を呼びかけ、ブースを出してもらおうように考えている。彼らのハラール基準に適したお店が、いったいどんなメニューを出すのか大変興味深く、今から開催が楽しみだ。

[注4]2024年1月13日インタビュー調査



写真10
店舗入り口にハラール肉対応する表示
出典：筆者撮影（2024-01-17）

表2 オリエンタルベジタリアン、ムスリムの方達にインタビューをした結果

現状	オリエンタルベジタリアン	ムスリム	課題
情報が分からないとお店に入りづらい	●	●	店外やWebでの情報発信不足
専門店かどうかにかかわらず対象メニューの可否が分かりにくい	●	●	
信仰の度合いにより制限するものが異なる		●	不明瞭な料理（食材、調理方法）の説明
食に関して、居住者は観光客と異なる基準を持っている		●	ターゲット選定不足

出典：筆者作成

インタビューをした方達の意見を表2にまとめた。

ベジタリアン・ムスリムともに、飲食店が多様性の食に対して、どのようなサービスを準備しているか情報を知りたいとの意見が多かった。

3. 福岡市飲食店の現状

ここまで多様性の食に関して、ムスリムやベジタリアンの方の意見を紹介してきたが^[註1-4]、では、実際、福岡市内の飲食店の現状はどうか調査した。

2023（令和5）年7月の世界水泳福岡大会の開催やインバウンド再開を契機に福岡市では外国人観光客の満足度向上や誘客に繋げる事を目的として、「食のユニバーサル推進」に取り組み、ヴィーガン・ベジタリアンのメニューを募集し、リーフレットなどで紹介している⁽²⁾。図4が福岡市で作成した「ヴィーガン、ベジタリアン、ムスリム対応の飲食店マップ」である。

図4 福岡ヴィーガン ベジタリアン ムスリム対応マップ



出典：福岡市経済観光文化局クルーズ課「福岡ヴィーガン ベジタリアン ハラール対応マップ」を基に筆者にて加工作成
<https://gofukuoka.jp/articles/detail/e4fb0b25-2005-4176-b1a0-70866214f798>
 [accessed 2023 Sep 14]

図4では、各店舗で対応可能なものはヴィーガンなのか、ベジタリアンなのか、ハラール認証の肉などを提供しているかなどがマークで表されている。また店舗リストを見ると、元々ベジタリアンやハラール専門であるお店ばかりではなく、今回のメニュー開発募集をきっかけに参加した飲食店もいくつか見受けられる。

そこで、ヴィーガン、ベジタリアンメニューのある飲食店を対象に①ヴィーガン・ベジタリアンメニューを開発した経緯と直面した課題②観光客の来店動機③福岡市の食のユニバーサル推進の取組みに関してインタビューを実施した。

(1) 鮨しま^[注5]

福岡市のヴィーガン・ベジタリアンメニュー募集をきっかけにヴィーガンメニューを作った福岡市中央区にある鮨しま。

大将によると、ヴィーガンメニュー開発で最も難しかった点は、いつも使っている調味料が使えないということだ。「ヴィーガンは魚介類などがNGのため、出汁に使うかつおも使えない。いつも使っている材料が1つ変わると味が変わってしまうため、同じような味わいで完成させるのが大変だった」と話す。

開発した豚骨風ラーメンと野菜寿司セット(写真11、12)の豚骨風ラーメンは、実はニンニクを使わず豚骨の風味を出したところに大将のこだわりを感じる。鮨屋であるしまは、鮮魚の繊細な風味が打ち消されてしまうため、料理にニンニクは使わない。そこで、ニンニクを使わず豆乳や生姜、ごまなどそれ以外の食材などで香りを引き出し、見事豚骨のような香りのするラーメンを完成させた。

残念ながら世界水泳大会の時期には、図4を見ての来店客はゼロだった。しかし女将が店舗のSNS上でヴィーガンメニューを始めた事を発信し続けた結果、インバウンド向けの旅行会社から直接連絡が入り、今では、グループの中の1人でもベジタリアンやヴィーガンがいる海外からの観光客が来店している。大将は「売れるかどうかわからないので、店舗としてメニューを取り入れるかどうか迷うところだ」と話していた。

確かにメニューを作ってもお客が来ない、需要がないのであれば、売上も含め、メニューを作る意味がないとシビアに感じる飲食店主の意見ももつともである。



写真11
野菜寿司

出典：筆者撮影（2023-11-21）



写真12
とんこつ風ラーメン

出典：筆者撮影（2023-11-21）



写真13
店主 中島彰則氏
女将 中島小百合氏

出典：筆者撮影（2023-11-21）

[注5]2023年11月21日インタビュー調査

(2) Will you curry me? [注6]

店名にカレーがついているが、実は、野菜を中心としたヴィーガンのお店である。主に旬の野菜や果物、福岡県産のものを使い、料理の味付けに香辛料などのスパイスが上手に使われボリュームも満点だった。お店はオープンしてまだ1年だが、口コミで外国人のベジタリアンの方がお店に来ることが多く、筆者がお店にいる時も外国人が食べに来ていた。オーナーの白神優賢さんがSNSで普段からPRをこまめにしているため、SNSの料理の写真やお店の雰囲気をつかかった上で訪問するヴィーガンやベジタリアンの方が多い。福岡市が食のユニバーサル推進を強化する取り組みを行っている事を伝えると⁽²⁾、その情報は全く知らなかった。

[注6]2024年1月11日インタビュー調査

ベジタリアン・ヴィーガン向けのメニューをオープンしている方達は、自身でSNSなどを活用し、常に新しい情報を発信しPRしている。ヴィーガンやベジタリアンが来店すると、そこから口コミで広がるため、人が人を呼んでいるのかもしれない。すでに専門店として稼働しているお店の情報を調べ、福岡市が行っている取り組みを多くの飲食店へ広めていくのが今後の課題の1つであると考えている。

(3) ピエトロ本店セントラーレ [注7]

福岡発祥の老舗パスタの店。ピエトロのパスタといえば「サラダスパゲティ」と名前があがる人気メニューだ。筆者も好きで昔からよく食べていたが、考えてみるとサラダスパゲティもベジタリアンメニューの1つである。その他にもレギュラーメニューとして大豆ミートを使ったナスのひき肉パスタやピザなど、野菜のメニューだけでなく、大豆ミートを活用してボリュームのあるメニューも多い。店員にソイメニューやベジタリアンメニューについて話を伺うと、「実は昨日は男子高校生が大豆ミートのナスのパスタを注文されてビックリしました」ということだ。



写真14
あまおうと春菊の生春巻き
出典：筆者撮影 (2024-01-11)



写真15
クミンやワインビネガー入りの人参フラッペや海苔レンコンなど野菜や豆がたっぷり入った前菜盛り合わせ
出典：筆者撮影 (2024-01-11)



写真16
人気のサラダスパゲティ
出典：ピエトロ公式サイトレシピ
<https://www.pietro.co.jp/recipe/detail/209> [accessed 2024 Jan 17]

野菜や大豆料理などは女性が好むイメージがあるが、ベジタリアンだけでなく、カロリーを気にしている方、自身の体を気遣いながらも、おいしいパスタ料理が食べたいという方達にも人気があるからこそ、毎日ベジタリアンメニューやソイメニューの注文が出ているのだろう。

[注7]2024年1月17日インタビュー調査



写真 17
ソイミートを活用したメニュー表
出典：筆者撮影 (2024-01-17)

(4) 訪日外国人が多く訪れる「屋台」

福岡市内で観光客が今、最も注目している飲食店というと、やはり屋台であろう。NY タイムズで 2023 (令和 5) 年行くべき 52 か所の中で 19 番目に福岡市が選ばれ、その中でも「YATAI」が注目されていた。屋台そのものを日本語読みにして表記している事に驚く。福岡市については、「屋台が並ぶ日本で数少ない場所」と紹介されていた。

図 5 ニューヨークタイムズ紙「2023 年に行くべき 52 か所」における福岡市の紹介ページ



画像引用：ニュー YORK タイムズ Web サイトより

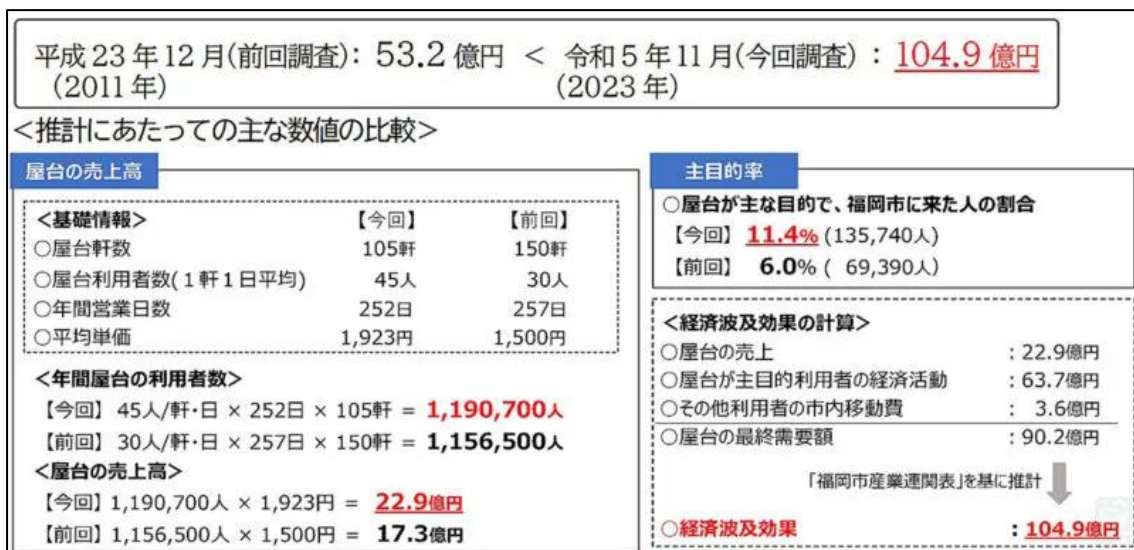
52 Places for Travelers to Visit in 2023 - The New York Times (nytimes.com)

[accessed 2023 Oct 19]

福岡市が全国初の屋台基本条例を制定 (平成 25 (2013) 年 7 月 1 日) してから昨年で 10 年を迎え、屋台の経済波及効果が 100 億円を突破したと報告した。図 6 を見ると、2023 (令和 5) 年 11 月現在の屋台数 105 軒、1 軒 1 日平均の利用者数や屋台内での 1 人あたりの飲

食費が伸びた事が見てとれる。

図6 屋台の経済波及効果 100億円突破ニュースリリース



出典：福岡市経済観光文化局屋台の魅力向上ニュースリリースより（令和5年11月30日発行）

https://www.city.fukuoka.lg.jp/data/open/cnt/3/116008/1/kaiken2_yataikeizaihakuy.pdf?20231130090419 [accessed2024 Oct 15]

これからインバウンド向けの観光客向けに「食」の魅力を発信していく際に、やはり屋台は欠かせない事が分かる。

筆者も屋台へたまに行くが、以前よりも外国人観光客の姿を多くみるようになった。屋台には、ベジタリアンやヴィーガンのお客は来ているであろうか、またその際、対応はどうしているのか、実際に屋台「あほたれー」の店主岩井高久さんに話を伺ってみた。^[注8]

筆者が屋台へ訪問した際も、台湾からの団体客が訪れ、屋台の料理に舌鼓を打っている最中だった。岩井さんに話を聞くと「昨年あたりから海外の観光客が増え、特に韓国、台湾、中国などアジアの観光客が多く、たまにヨーロッパやアメリカの方達も来店し、グループで来たうちの何人かがベジタリアンで、注文をする際にベジタブルメニューあるかと質問をされることある」ということだ。岩井さんの屋台では外国人客も積極的に受け入れているが、高齢の店主がお店の切り盛りをされている屋台などでは、英語が出来ないからと入店をお断りする場合もある。外国人を受け入れるかどうかは屋台の組合として目印をつけるなど考えていかないといけないと話していた。また屋台あほたれーではベジタリアン用の料理はないが、天ぷらの盛り合わせやおでん、山芋鉄板、野菜炒めの肉なしなど既存のメニューから野菜のみでの対応をしている。せっかくなので筆者もベジタリアンメニューを注文してみたが、野菜メニューだけでも、バラエティ豊富なため、十分お腹は満たされた。

[注8] 2024年1月17日インタビュー調査



写真 18
天ぷら（ピーマン、レンコン、ごぼう、しいたけ、山芋）
出典：筆者撮影(2024-01-17)



写真 19
山芋鉄板
出典：筆者撮影（2024-01-17）



写真 20
おでん（大根、たけのこ、ごぼう、こんにゃく）
出典：筆者撮影(2024-01-17)

表 3 飲食店へインタビューをした結果

現状	鮪しま	Will you curry me	ピエトロ	屋台	課題
福岡市のマップ（図 4）に載せて対象客が来ない	●				福岡市の情報発信の手法や仕組みの見直し
福岡市の食のユニバーサル推進の取り組み自体を知らない		●	●	●	
対象客ヘリーチに各店舗のメディア（SNS、YouTube）を活用	●	●	●	●	
英語が話せない店主は対応してがらない				●	対応店舗の明確化
メニュー開発に時間を要する	●				ヴィーガン・ムスリムメニュー開発支援
レギュラーメニューへ不定期の対応が難しい（仕入れ、コスト）	●			●	

出典：インタビューを基に筆者作成

4. 海外での飲食店の現状は？

次に諸外国の飲食店の対応はどうか調べてみた。最近、ニューヨークに訪問した福岡アジア都市研究所の松熊功さんによると、ニューヨークでは、多くの店で通常メニューに加えて、ベジタリアン用の料理やヴィーガン用の料理があり、ベーグル専門店「Ess-a-Bagle」、福岡に本店があるラーメン屋 Ippudo NY について情報をいただいたので、ここで紹介したい。

表4 ベーグル専門店「Ess-a-Bagle」の注文方法

①中身を選ぶ	シグニチャー・フェイバリット（スモークサーモン・ワケギ・クリームチーズ・レタス・トマト・赤玉ねぎ・ケッパー）等14種ほど
②ベーグルを選ぶ	プレーン、全部、ケシ、ライ麦、タマネギ、ニンニク、ゴマ、塩、シナモン、レーズン、全粒粉、マルチグレイン
③塗るものを選ぶ	クリームチーズ（プレーンや味付きなど20種ほど）、豆腐スプレッド（プレーン、味付き6種ほど）、ジャム
④サイドメニュー、ドリンク	
⑤店内か持ち帰り	

出典：松熊氏の情報を基に筆者作成

ショーケースからそれぞれ自分で選ぶスタイルの飲食店は、注文する人が食べられる物を自由に選べる。ベジタリアン・ヴィーガンに関しては安心して頼めるであろう。日本でいうところの、フードコートにあるうどん屋やSUBWAYなどのサンドイッチのお店も、自分で選択して買えるので、お米やパン、麺がベースでトッピングを選べるスタイルのお店では、すぐにでも真似できそうなシステムである。

そして、豚骨ラーメンの聖地、福岡市に本店のある一風堂の「Ippudo NY」(East Village)

このお店のメニュー表の中に「Vegetarian Ramen」が3種あった。図7で紹介した写真で見比べても、値段も通常のラーメンメニューとほぼ同じである。



写真21
ショーケースの中には、選べる具材が入っている
写真提供：松熊功氏
(2023-11-22)

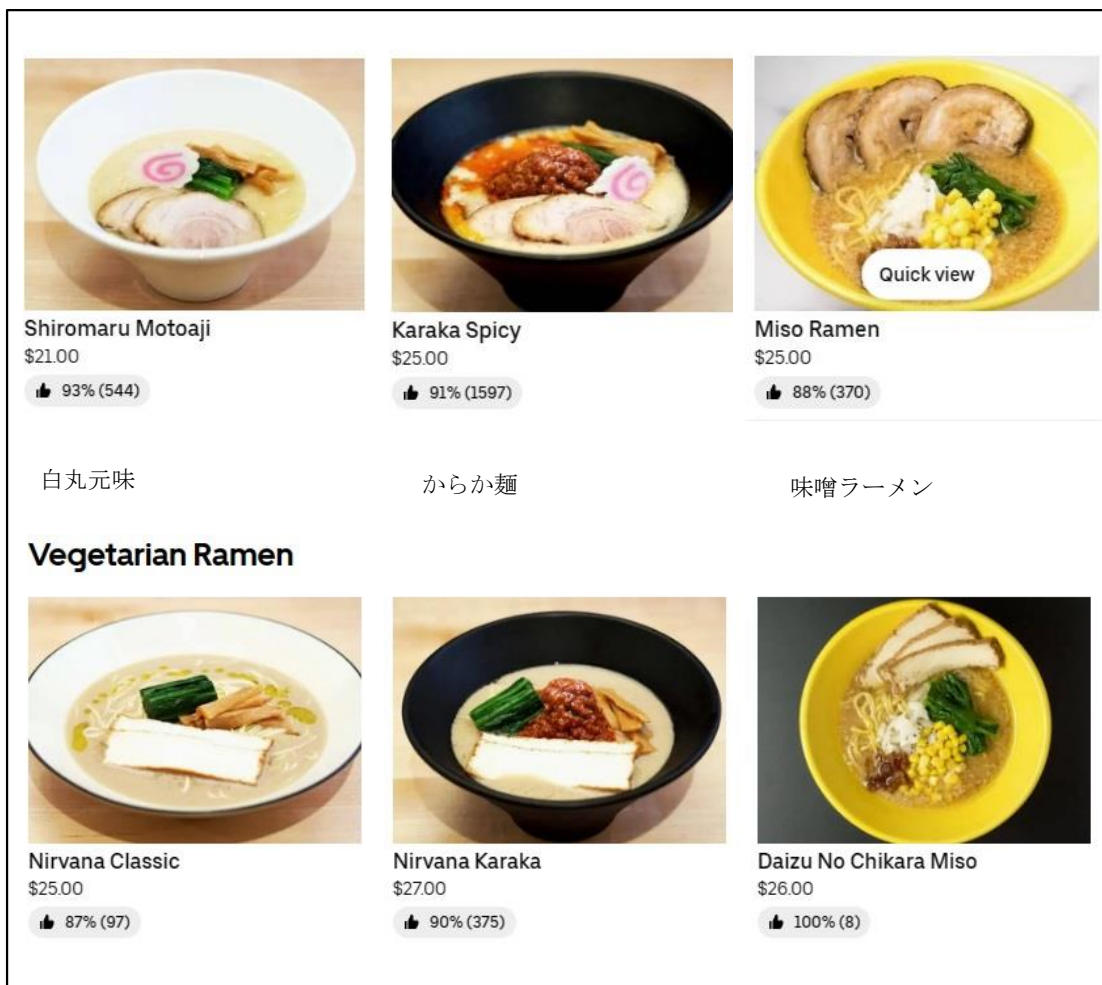


写真22
シグニチャー・フェイバリット+ごまベーグル
写真提供：松熊功氏
(2023-11-22)



写真23
季節限定のベジタリアン・ラーメン
写真提供：松熊功氏
(2023-11-23)

図7 通常のラーメンと同じシリーズのベジタリアンメニュー



出典：引用画像：IppudoNY Uber eats を基に筆者作成

<https://www.ubereats.com/store/ippudo-ny> [accessed 2024 Jan 17]

一風堂は、日本国内の東京の新宿、銀座と石川県金沢市の店舗では、プラントベースラーメンを提供しているが、福岡市内の店舗では、メニュー開発当初はあったものの、現在は提供していない⁽³⁾。

インタビューしたムスリムやベジタリアンの方達^[注 1-4]も福岡へ訪れるならば、やはりとんこつラーメンが食べたいという。しかし豚肉は食べられないので、とんこつ風ラーメンがあれば喜んで食べるのではないだろうか。ムスリム向けに飲食店情報をインターネット配信する株式会社Halal navi（ハラルナビ）の調査では、ムスリムの9割近くが日本で食べたい料理に「ラーメン」を挙げた⁽⁴⁾。ぜひ、豚骨の聖地福岡の一風堂店舗で、本店のみでも良いので、レギュラーメニューとしてプラントベースメニューを復活させてほしい。

ニューヨークでは、比較的、多ジャンルの飲食店でレギュラーメニューとしてベジタリアン・ヴィーガン用の料理があるが、福岡市の飲食店では、まだまだ事前予約で対応するという飲食店が多い。しかし事前予約は、観光客にとってはハードルが高いと思われる。

なぜなら日本に来る前に予約をする場合、海外からの予約が難しいシステムがほとんどだからである。また飲食店に直接予約連絡をしたとしても、申込の際は、必ず、当日繋がる電話番号などの情報が必要である。個人での観光だと日本国内で電話が出来なくなるため、簡単には予約しづらい。

筆者が海外へ行った際の事を振り返ってみても、ネット環境があれば Wi-Fi で情報の閲覧はできるし、ネットでメールのやり取りはできるため、海外用の電話を借りたりせず、自身の携帯のみであまり支障がない。日本へ観光に来てから、ネットで検索をして飲食店に直接行き、その場で注文して食べられると、もっと気軽に食事を楽しめる方が増えるだろう。

5. 観光案内所でのベジタリアン・ヴィーガン・ムスリムに対する対応

福岡市内には、博多と天神エリアにそれぞれ観光案内所がある。そこに来る観光客でベジタリアン・ハラールの方達への対応をどのようにしているのか伺ってみた。

天神の観光案内所は、中に入ると飲食店や温泉、街歩きなどのパンフレットが地域別に区別され、多言語でのパンフレットも準備されていた。受付の方の話によると、ベジタリアンやハラール対応の飲食店の問合せもあり、図4の福岡ヴィーガン・ベジタリアン・ムスリム対応マップが出来る以前は、スタッフ自ら手書きで作成していた飲食店地図で案内をしていた。ただ飲食店は個人経営など小さな店舗が多いため、常に最新の情報を得られるよう、直接、飲食店に連絡をしてスタッフ自ら情報を更新しなければならなかった。しかし最近は、Wi-Fi 機能があるタブレット端末が案内所に設置されているため、訪れた観光客は自由に操作して、自身で検索して探される場合もあるとのことだった。

6. 「食の都 福岡市」を世界的なブランドにするには

今までの調査で福岡市でも、アフターコロナでインバウンド向けの多様な客層に対応するため、「食のユニバーサル推進」に向けて様々な働きかけを行っている事がわかった⁽²⁾。しかし、その情報を福岡市に訪れる観光客に届けるためには、認知度が低く、また飲食店と行政が連携しきれておらず、多様性の食が楽しめる飲食店を増やしても対象となる方達に届かなければ、飲食店もこの活動に賛同しづらいのも事実だ。

そこで、これから福岡市を「食の都福岡市」として食のユニバーサル推進をブランド化するためには、行政、飲食店などはそれぞれどのような取り組みを推進すればよいか、筆者なりにまとめた。

(1) 食の多様性の福岡独自のマークを開発

インタビューをしたハラールの方達や
オリエンタルベジタリアンの方^[注1-4]も言
っていたが、飲食店がどのような対応をし
ているかが見えていないお店には、怖くて
入れないという意見が多かった。

ハラール・ヴィーガン・ベジタリアンそ
れぞれに対応した指標を飲食店のメニュー
ごとに表記し、それが分かるように発信し
ていく必要がある。留学で福岡に来ている
ムスリムやベジタリアンの方も多くいるた
め、その方達に協力していただき、昨年度
作成したMAPを活用し、使う方達の意見も
取り入れながら進化させていくべきであ
る。

例えば、飲食店の入口や店舗メニューに
対応店であることを分かるように示しては
どうだろうか。全国チェーンのお店では、
常時ベジタリアン向けのメニューがあり、
モスバーガー、スープストック東京では、
ベジタリアン向けのメニューには、分かり
やすいよう色付きで記したり、マーク（写
真27の赤丸の点線で囲った部分）などがついている。



写真24
モスバーガーメニュー表

出典：筆者撮影（2024-01-16）



写真25
モスバーガープラントベースのグリーンバーガー

出典：筆者撮影（2024-01-16）



写真26
スープストック東京福岡パルコ店 ベジタリア
ンメニューは1週間ごとに変わる

出典：筆者撮影（2024-01-17）



写真27
ポロ葱と白いんげん豆のミネストローネ

出典：筆者撮影（2024-01-17）

(2) SNS を活用し、福岡市へ訪れる観光客や旅行代理店向けに PR

観光庁が発表している訪日外国人消費動向調査 2022 (令和 4) 年年次版⁽¹⁾ を見てみると、日本滞在中に役に立った旅行情報源は、「スマートフォン」84.7%と最も多い。

インタビューをした飲食店店主^[注5-8]は、それぞれ SNS アカウントを持ち、SNS で発信したヴィーガン・ベジタリアンメニューを見て旅行代理店や飲食店を訪れる観光客が多い事からも、観光で福岡を訪れている方は、インスタグラムや X、TikTok など SNS で情報を検索して飲食店を選んでいることがわかる。

福岡市のヴィーガン、ベジタリアン、ムスリム対応マップはホームページ上で配信をしているが、先に述べたように、今の観光客は携帯での情報検索が活発であることから、SNS サイトを立ち上げ「食のユニバーサル」コンテンツを作成して発信すれば、1 人でも多くの情報を探している方に届くであろう。筆者がインスタグラムで調べたところ、東京近郊のベジタリアン・プラントベース対応の飲食店を紹介する SNS はあったが、福岡市内の飲食店に特化した SNS はなかった。



引用画像：インスタグラムベジタリアン専門 SNS アカウント「Vegewel」
[accessed2024-01-17]



引用画像：インスタグラムベジタリアン専門 SNS アカウント「Vegewel」
[accessed 2024 Jan 17]

(3) 飲食店のメニュー開発支援

食のユニバーサル推進をブランド構築するためには、やはり「飲食店」の賛同は欠かせない。そして、まだ行政が活動している内容趣旨を得られていない飲食店も多いと推測する。先に述べた予約なしでも食べられるメニューとして、「ヴィーガン・ベジタリアンメニュー」を 1 品加えてもらえる取り組みが大切であり、まだ取り組みが出来ていない飲食店に働きかける必要がある。

そこには、飲食店を出店する際に許可申請で必ず連絡を行う「保健所」などにも協力いただき、飲食店への情報発信の幅を広げていく必要があると考える。

また自分達は食の多様性を意識して組み立ててはないけれど、例えば、イタリアンのパスタやピザなどベジタリアンやムスリムの方でも食べられるメニューがある場合も多い事が

想定される。そういう飲食店に向けても情報を促し、一緒に取り組みに加わっていただける仕組みも必要である。

すでに市内でヴィーガン・ベジタリアン・ハラール料理の対応をしているシェフを講師に、定期的に料理指導会を開いたり、ヴィーガン・ベジタリアン・ムスリムメニューを取り入れる事で、新規観光客が開拓できるメリットをその際に伝えられれば、福岡市内の飲食店を巻き込み一体となったブランド構築を推進できる。

(4) 食の体験コンテンツ

インバウンド旅行者というと、一昔前は「爆買い」といわれる買い物に重きを置く観光客が多かった。しかし図3に表記された「訪日外国人旅行者が日本滞在時にしたこと」にも挙げられているが、最近では買い物よりも、ここでしか食べられない食や体験などを中心に観光をする方が増えている。知り合いの生産者からも果物をたくさん食べたいからといちご狩りやぶどう狩りの予約をして訪れる外国人観光客も多いと聞く。日本の果物はアジアのデパートなどで高級フルーツとして販売されているほど大変人気が高い。日本のフルーツ輸出額はここ数年増加傾向であり、特にアジア圏への輸出が大半を占める⁽⁴⁾。以前、私がワシントン州シアトルでアメリカ人向けに味噌や豆腐作りなど日本の食文化を体験する講座をした際も、とても熱心に日本食や発酵食についての質問をされた。

そこで福岡市内で農産物を作っている農家やJAなどとコラボをして、手巻き寿司や野菜収穫、料理作りの体験ができるプランなども作成すると、より食の多様性の方向けに福岡の食を満喫してもらえるはずだ。



写真 28
シアトルでの大豆から豆腐作りの模様
出典：筆者撮影（2018-07-29）



写真 29
シアトルでの日本の食文化について説明中
出典：筆者撮影（2018-07-29）

おわりに

今回のテーマである食の多様性について、福岡市でも、アフターコロナを見越して、数年前よりヴィーガン・ベジタリアン・ハラール対応の食の推進をしていた事が調査によりわかった。ただ、飲食店との連携がうまく行かず、また情報発信を含めて、この取り組みに関する認知度が低い事がわかった。

今は、1人1台スマホを持ち、旅行中に情報を得ながら町を散策する観光スタイルが主流である。筆者自身、観光で海外へ訪れる際も、SNSなどで現地の情報を検索し、気になる場所や食べ物を食べに行くことも多い。

福岡市内には飲食店の数が大変多く、全店舗に一度に賛同を得るのは難しいが、飲食店の組合などへ働きかけを行い、少しずつ土台を固め広げながら、この取り組みを進める事で、飲食店に活気をもたせ、福岡市がさらに全世界の様々な多様性の方達に向けて、自信を持って、福岡の食を進められるようになればと思う。

また福岡市近郊には、様々な種類の野菜や水産物など新鮮な食材も豊富だ。食というと、飲食店にスポットが当てられがちだが、その飲食店で使われている食材にも目を向け、出来るだけ地元の食材を使ってメニュー開発ができると、SDGs に掲げられている地産地消を推進する活動を世界にPRでき、より福岡の食のブランド価値が上がると考える。

筆者自身も普段、食の事業者向けに商品開発やイベント企画など、「食でみんなが笑顔になれる活動」を行っている。今回の調査結果を基に福岡市で新たな食のプロジェクトが始まることを期待している。

以 上

筆者紹介

桑原ナミ（くわはらなみ）
N. GROWTH 株式会社 代表取締役
福岡県北九州市出身



短大卒業後、フリーアナウンサーとして活動。食の取材などを通して、こだわり野菜を作る生産者と出会い、地産地消に興味を持った事がきっかけで、野菜ソムリエ、食の6次産業化プロデューサーなど食の資格を取得。

現在は、食の資格を持つフリーアナウンサーとして県内外の生産者訪問で学び、感じた事を多くの生活者に伝える講師活動やイベント企画、農林水産物に付加価値をつける商品開発アドバイザーや販促支援活動を行っている。

研究活動の感想

本論文取材でご協力いただいた飲食店や関係者の皆様、またインタビューにお応えいただいたムスリム、ベジタリアンの皆さまに感謝いたします。本論文で私が伝えたかった事に関して100%伝えられたと思っていますが、提言しただけで終わらせたくないとも感じています。本論文をご一読いただいた方の中で「食の都 福岡のブランド化」に興味がある方、目指す方達がいましたら、ぜひ一緒にプロジェクトとして進めることができれば幸いです。気軽にお声がけをお待ちしています。

(参考資料)

- (1) 観光庁 訪日外国人消費動向調査 2022 年次版 P22.
<https://www.mlit.go.jp/kankocho/siryou/toukei/content/001609726.pdf> [accessed 2023 Oct 7].
- (2) 福岡市経済観光文化局クルーズ課 [プレスリリース]. ヴィーガン・ベジタリアン新メニュー開発事業における試食ツアーについて. [Internet] 2023 Jan 24.
https://www.city.fukuoka.lg.jp/data/open/cnt/3/104595/1/newmenu_sisyokutua.pdf?20230125083444 [accessed 2023 Sep 14].
- (3) 力の源ホールディングス広報担当者へEメールで問合せ [2024 Jan 17]
- (4) 株式会社Halal Navi [プレスリリース]. 【ムスリム 1581 人へのアンケート調査結果】日本国内でハラールフード入手について心配 86.1%、お祈りができる場所を見つけるのが難しいと回答 83.6% ～政府目標 2030 年訪日外国人旅行者数 6,000 万人の中、急拡大するムスリム観光客を見据えた 2024 年最新の意識調査 ～[Internet]. PR Times. 2024 Feb 16.
<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000002.000136342.html> [accessed 2024 Mar 4]
- (5) 農林水産省 野菜・果実等の輸出額の推移
https://www.maff.go.jp/j/shokusan/export/e_info/attach/pdf/zisseki-17.pdf [accessed 2024 Jan 18]

町づくり どげんすると 博多の山笠・暮らし文化で 生き生きとした高齢化社会に、せないかんやろうもん

令和5年度市民まちづくり研究員 松尾 孝司

はじめに

全国的に福岡市をアピールするときに、博多祇園山笠は、大きな存在感・宣伝効果がある。心意気を感じさせ、現代人がなくしつつある個人の晴れ舞台と意識する人もいる。福岡市の精神的な都市としての象徴でもあるだろう。その山笠を軸に、十日恵比須、どんたく、放生会、くんち、夫婦恵比須……と博多は一年中、祭りが続き、その祝祭の中に生き生きとした人間の暮らしの風景・絆がある。

心地よい空間・景観とは、単なる都市デザインの設計図のようなものではなく、生き生きとした人間の顔が見える、暮らしやすい、生きるよろこびを実感できる風景だ、と考える。

大切なのは、人間の息遣いの聞こえてくる町的生活空間としての景色・風景であろう。心がわくわくしたり、やすらいだりする情景が必要なのであろう。はつらつとした、元気な人間のいる景観に、どうするのが問われている。

かつては、都市デザインというと、建築設計のプロが鉄筋コンクリートとガラスを主体にした造形を優先し、「雨漏りがする」といわれるなどの建築物も建てられた。その後は、経済効率・収益を高めるデザインの高層ビルが街の中にはらんするという現実である。そんな都市のデザイン・町づくりに改めて「住む人・働く人の視点に立った町づくりとは」と、問いかけるものは何だろうか。

町内で、暮らし・商売を支えあっていた、農村地域の村落共同体と類似の部分もある都市生活共同体の時代と、企業に勤めるサラリーマン中心の時代とでは、差がある。時代・生活のずれもあろうが、長年の博多の暮らし・伝統行事の中に、高齢化・孤独感の強まる時代の解決策のようなヒントが息づいているのでは、と考えた。

過当競争社会、経済効率優先、子供たちに伝えるものを見失い拠点都市への一極集中が進行する少子高齢化社会といわれる時代、どう、現代の悩み・課題と向き合うのか。自らの店・企業活動よりも地域社会／町とともに暮らすことを誇りにし、尊重されることを誇りにできる生き方・暮らしの風景の中に、共生・共助のよろこびをみつけなければなるまい。

自由な職業選択の時代、つねに競争を強いられ、とくに定年後は、暮らす地域で、ばらばらになってしまった都会の匿名性社会の中で、孤独な老後を迎える現代人にとって、共生社会の積極的な意味合い、公助の限界も考える必要もあるのではないか。コロナワクチンの接

種など公的サービスが充実し、町内で支えあうという暮らしの共助・福祉の必要性が薄れていく時代にあって、現代社会が無くした、コミュニティ・町内の可能性とともに、その時空を超えた町の絆の可能性とともに、祝祭を伴う人生の晴れ舞台、心意気の今日的意義も博多山笠を軸として博多の暮らし・文化・自治の視点から見つめてみたい。

かつては寺社が地域のみなさんの集う場として使われてきたが、地域の絆を改善する、深めるための場として、公民館や老人憩いの家の活用などを工夫して、にぎわいの場が必要ではなかろうか。キリスト教でもミサのパンとワインが大きな意味を持つ。ただ、公民館などは、広い校区の中に一カ所、ポツンとありがちで、なかなか利用しづらい。山笠は、人をひきつける、呼び寄せるエネルギーを秘めている。そのノウハウをどう生かせるのか。

近年の都心の商業施設・企業支店の集積と、住宅地の郊外化は、住みにくさ、生きにくさも課題となっている。「ショッピングセンター、ビジネスセンター重視の町づくりで、よかとですな」、「生き生きとした高齢化社会に、せないかんやろうもん(しなくてはならないでしょう)」との博多っ子の声も出ている。そんな、現代のニッポンにとって、博多の暮らしの生活文化・山笠は、高齢化社会になりつつある現代日本にとって大きな課題解決のアドバイスを示唆している。

ただ、今日の博多山笠は、観光行事、観光・スポーツ・イベントとして見られ、正しく全体像が理解されていない傾向が強い。誤解されている部分も多いのではあるまいか。さらに、その暮らしの文化や知恵を知る人は極めて限られている。

インターネット時代の「絆」づくりへの工夫も必要であろう。関東大震災から100年が過ぎ、公助の限界も指摘されて市民の力が期待されている。男女共同参画社会づくりへ力を注いできたように、高齢者参画社会づくりの第一歩にもしたい。これは学者・研究者の視点ではなく、博多の暮らし・文化を語り継ごうとしている博多を語る会の一員、市民の気づきの目からのまとめである。

櫛田神社の前で育ち、博多山笠や松囃子などに参加した経験をもとに、わくわくする高齢化社会をつくり出すために、ささやかながら高齢博多っ子の体験的な『知恵』を、活かしたい、とのレポートである。昭和への懐古趣味も混じりそうである。

1. 博多山笠

(1) 山笠の起源と歴史

博多の暮らし・祝祭の軸である博多祇園山笠の歴史について一応簡単な歩みと祭りの日程に、ふれておく。

山笠の起源は、いくつかの説があるが、博多祇園山笠振興会などは、鎌倉時代の仁治2(1241)年、疫病退散を祈祷して、承天寺の僧・聖一国師が施餓鬼棚に乗って、甘露(祈祷)水をかけて町の中を回ったことにある、としている。山笠は、ご神体であり、それをかついで回るといえるのは、都市住民は、健康管理・維持のために、ご神体と一体となって健康を維持

できるというのである。信仰と、健康づくりという「ご利益」が一体化している。

町内、流、あるいは山笠振興会などの単位ごとに頻繁に会合が開かれ、それが楽しく「ご利益」が期待できる。だから、町をあげて、祭りの運営の中心である当番町になったときに立派な山笠づくりを競ってきたといえる。

表1が示すように、山笠の歴史には、外部からの批判・圧力が繰り返された。

表1 博多山笠の近世・現代の主なできごと

明治5(1872)年	新政府・福岡県から禁止令 博多山笠は、松囃子とともに「江戸時代の陋習」「裸で野蛮、朝から酒を飲む」などと批判された。
明治8(1875)年	簡素なゆかた山笠建設(豪華なものにしないことを条件に許可)
明治16(1883)年	昔のような山笠建設が認可され復活 地域の人たちの絆となっていることや暮らしのメリットなどが理解されたが、電信のケーブル架設で山笠はしだいに低くなる。
明治31(1898)年	福岡県知事から「朝から裸で、酒を飲み、しかも電線などを壊す」などと批判にさらされ、中止を求められた。 九州日報の主筆・古島一雄が、「山笠を低く、法被を着用すればいい」などと提言し、今日の法被着用となった。 (もともと、氏神様に奉納に行く時は、白い半纏を着ていたのではないか)。
明治38(1905)年	福神流が追い山ならしめるとき雷鳴を太鼓の音と聞き違えスタート、櫛田入りし、トラブルが発生、福神流は、これ以降、山笠を建てなくなった。
明治43(1900)年	福岡市内に電車の架線が敷設され、ほとんどの山笠を低くせざるを得なくなった。
大正7(1918)年	台風で据え山全滅 (近年はビルの中の飾り山笠が増えた)。
大正9(1920)年	第一次大戦後の不況で、いったん全部の山笠が中止の決定、 その後、異論が出て、4つの流から山笠が出た。
昭和20(1945)年	福岡大空襲で町の大半が焼失。地元住民が郊外へと出て行った。
昭和41(1966)年	伝統のある町の構成は町界町名変更で133カ町が24カ町になった。 お向かいさん同士、同じ町だったところが別の町になり、地域コミュニティが破壊された。

出典：筆者作成

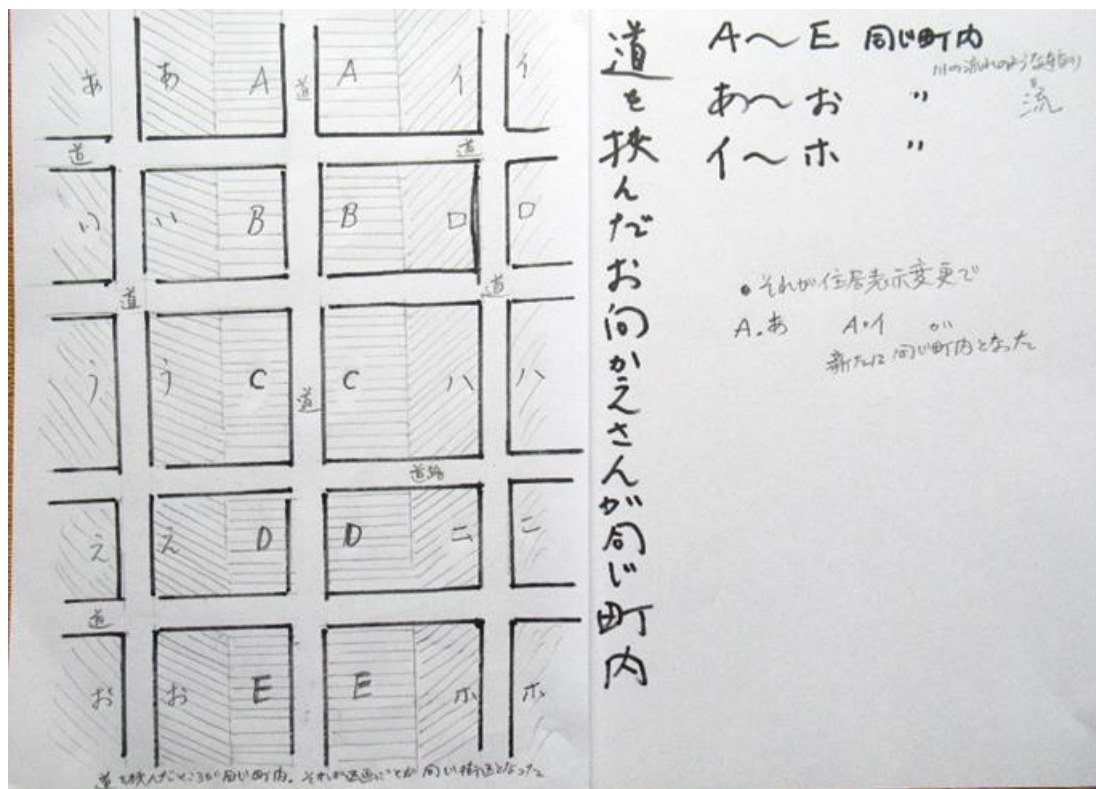
この表のように、こうした外圧を乗り越え博多っ子が存続させてきた原動力とは何なのか。暮らし、共助・共に楽しむという人間の原点が息づいているからであろう。

町界町名変更で解散に追い込まれた土居流は、若手が山笠を続けたいと保存会を結成し動いた。当初は、50人ぐらいの参加しかなかった。しかし、「町は分断されても心は一つ」と、行政の決定を乗り越えて、道路方式による旧町を別に存続させたことは町の暮らし、文

化の継承にとっては、大きな参考例であろう。

このとき、呉服町流は解散、西流、東流などへ流の再編が行われた。その一方、山笠存続への、さまざまな努力、模索は続いた。その心意気の一つが、上川端通の走る飾り山の誕生である。江戸時代、明治時代まで続いていたスケールの大きな山笠が再び町の中を走ったのである。また、戦後間もなく発足した中洲、千代流の誕生の中にもドラマが潜んでおり、いろんなところに山笠を存続させる知恵・工夫をみることができる。

図1 イラスト・町の住居表示の変化



出典：筆者作成

※住居表示前は、道(街)路方式の町だった。道を挟んだ、お向かいさんが同一町内。図ではA～Eなど町が縦につながり、町の連合体である「流」を組織していた。これが街区方式の住居表示では、住居区画ごとが町の単位となり、たとえば、道路西(左)側では「Aとあ」「Bとい」などが町の単位となり、道路東(右)側では「Aとイ」「Bとロ」などが同じ町の単位となる。



写真1 東長寺前の清道旗を回る山笠 6人乗り

(筆者撮影)



写真2 東長寺前の清道旗を回る山笠 2人乗り

(筆者撮影)

※速さに重きを置かない流(写真1)は、台上りが表、見送り<後方>それぞれ3人ずつの計6人と山笠が重くなっても、その伝統を守る。しかし近年は、表、見送り、それぞれ1人の流が多い(写真2)。それぞれの流が大切にしているものが違うこともわかる。

一方、現在、商店街や企業などが建てる飾り山には、従来の舁き山とは違った課題がある。高さのある豪華な飾り山は、かつては、町の中を舁きまわっていた往時の山笠のなごりでもある。電線や電話線が町の中に架設されて、現在のような低い山笠が走るようになって、高さを保ったままでは動かさない現在の舁き山笠、飾り山笠という 2 つの「かたち」になった。しかし、建設予算は、それなりに高額になる。だから、飾り山は、商戦を盛り上げたいという商店街など限られた場でしか建設しにくいという現実がある。しかも、山笠を舁いて櫛田神社に奉納するという晴れ舞台はなく、山笠建設に汗を流した皆さんを顕彰する場がないのである。苦労ばかりが多く、晴れ舞台がないという悩みである。

博多山笠は、昭和 54(1979)年に国重要無形民俗文化財になった。現在、福岡市は、誇りであり市のプラスイメージになっているとして、年間 2780 万円の補助金を出している。内訳は、舁き山・各 215 万円。飾り山・各 90 万円。

(2) 山笠の特徴

①山笠の法被は参画している町の誇り

参加する町内ごとに法被がデザインされている、というのも山笠の特徴である。住んでいる町・地域の誇りとして着ている。町は、道路を挟んだ家々を同じ町とする道(街)路方式とされてきた。「流」という町の連合組織で、同一の白地法被を作るところもある。

法被は、祭りの準備期間である 6 月から着用する。町名などが一目でわかるようにデザインされており、背中に大きく社名がわかる背広を着て町を出歩いているようなものといっいい。自分の暮らす、商売をしている町を誇りにしている。どこに住んでいるか、所属しているのか、生活の場を博多っ子が誇りにできるところでもある。一方、冠婚葬祭・日常の暮らしの中で、どこのコミュニティ(町内)のものかを明らかにすることは、町に対して強い責任感も生じる。個人と町が一体となっている。



写真 3 所属する町が一目でわかる法被。久留米緋のデザインに特色がある。(2023 年 7 月 14 日筆者撮影)

博多の街は、呉服を売っている店が多い町もあれば、海産物関連の店が多い町もあった。職人さんの多い町もある。山笠は、それぞれの町の個性をアピールする場でもある。いろんなところから人が集まって栄える町という特色がある。個性の違うところを尊重する。飾りつけた山笠の出来栄を誇りにする、というのは山笠の原点である。山笠は商家、工芸作家、大工、織物…地域の総合力が生きている。人が集まってきたくなる「都市の知恵」が、地域づくりのヒントが詰まっている。

住んでいる、暮らしている町、地域を誇りにして生きることができる。離れていても一つの共同体を意識させるところに大きな存在意義があるといえよう。

長い年月、1000年近く続く祭りには、古代から国際交流で栄えた博多という地域の人が伝えてきた秘密がある、と考えていい。いろいろなピンチを乗り越えて続く無形民俗文化財の息づく博多の「知恵」。農耕の豊作を祈念したり、豊作を感謝したりする春と秋の祭りが多いが、人口が一極集中している現代都市の博多に息づく夏祭りの「知恵」は貴重である。

②気易く集まることが、わくわくする

山笠に現代の都会人が集う。なによりも、仕事を終えた後から始まるケースが多く、祭りもシンプルで参加しやすい。法被も高価ではなく、手に入りやすい。まず、ゆっくりと老若・子供が水を浴びるなどしてスピードを上げずに一緒に走る、というところがいい。追い山では、体力に応じて、近道の選択ができることもいい。

一緒に連合体を組む10か町ほどの中を、水を浴びて回ったあとの直会も意義深い。短時間、異文化・異業種…酒食をともにしながら、いろんな人たちの交流の場となっている。人が集まって語り合えて楽しい、役立つということを肌で知っているのである。直会はテントの詰所で、30分ほど。向き合ったもの同士が一本のチクワを握って、回し合うってちぎって食べたり、梅焼酎につけたあとの梅の実を食して語り合う、という例もある。簡素に短時間で仲良くなる、ふれあいの場だ。

近年は、ふとしたことがきっかけで山笠に参加した人間が、その面白さなどに強い関心を示し、夏休みや勤務の間を縫って福岡にやってきて参加するケースが目立つ。遠く関東や海外勤務者が駆けつけるという例もある。

博多山笠への参加は、きわめてシンプル。氏神様への奉納というスタイルで、勤めている会社や経営している商店の役職などとは関係なく、みんな平等であるところがいい。健康づくりとともに、直会・会食の場の出会い・語らいの場としてのコミュニケーションの場の機能が重要である。ヨーロッパ風でいえばミートアップ、異文化交流の場、である。

基本的に7月9日から15日早暁までの都合のつく日に参加すればいいので、リーダーシップを発揮する必要度の低い参加者は「お客さん」のように気軽に加わることが可能なのである。期間中、祭りが始まるのが、午後5時ごろからというもの、「一応仕事ですんだあと」で、周りへ仕事の負担をかけることは少ない。参加者の都合を勘案して参加できるのである。いろんな人との健康づくり、出会いの場を楽しめばいいのである。



写真4 山笠の詰所で直会の準備 (写真提供：池田節子氏)



写真5 詰所で直会 (写真提供：池田節子氏)

③山笠の行事日程の中に見る「都市の知恵」

山笠は、博多っ子の暮らしの中に一年を通して息づいている。7月15日の追い山が終わった後、飾り物などを外し、6本の棒だけがついた山笠台を受け取り、次年に向けて、流内の会合などを重ね準備を進めていく。一年を通して、町の人が語り合う場があるのである。町内、流内、全部の流、それぞれの調整・打ち合わせのために、ひんばんに寄合が持たれる。祭り本番は旧暦では6月1日から15日までだった。現在は7月1日から15日までとなっている。観光行事の関心から一部だけ注目を集めていない傾向にある山笠の全貌・奥深さを知っておくために、山笠が毎年7月に入ってから執り行われている祭りの詳細日程を、表2のようにまとめた。

表2 博多祇園山笠の行事日程（7月1日～7月15日）

1日	<p>当番町お汐井取り 当番町は各流を構成する流のリーダーシップを担う。健康ウォークの始まりである。</p>
9日	<p>参加者全員による流のお汐井取り 梅雨時の健康維持にも役立った。まず箱崎浜まで片道約3キロ、往復2時間足らず。いわゆる、祭りのウォームアップの機能もある。現在のウォーキング健康法の先取りといってもいいのか。病気退散を祈願して始まった、という起源にも、都市の人たちの健康法としても大きな意味をもっていた。</p>
10日	<p>流れ昇き 10カ町前後の町で構成されている流（川の流のように続く町の連合体・ミニ校区）の中を昇いて回る。最後の直会は、最も大切なところ。心理的にも、水を浴び、ひたすら走り、軽い飲み食い。最後の後片付けも若手がやるので、長時間、飲み食いはできない。短時間で、ストレス社会からの解放感を味わえる。現代社会から隔離して、悩みを忘れさせるというカウンセリングの意味もあるのではないかな。</p>
11日	<p>朝山（祝儀山） もともと神聖な奉納祭事のかたちが残っている。台上がりは、一般の法被は着用せず、無地の法被を着用。昇き終わった後、土居流では各町ごとに「捻切り」という行事がある。ちくわと梅での会食である。この日、子どもを山笠台に上げて昇く流も。夕方は他の流域内を昇いて回る他流れ昇き。ただ、近年は、やっていないところが増えた。</p>
12日	<p>追い山ならし 追い山のコースを1キロ短縮して榎田神社から博多小学校前まで博多の町を走る。</p>
13日	<p>集団山見せ 昭和37(1962)年から。福岡・博多に貢献した人の顕彰にもなる。当初は「観光宣伝隊ではない。なぜ、博多の祭りを福岡に持って行く必要があるのか」と参加しない流、人もあった。「福岡市から、かさむ山笠建設費用にあてる補助金を出してもらおうためと言っても、博多の祭りを、よその土地に昇き入れる必要はないのではないかな」などといった声も出た。参加を断った人や流は、福岡に山笠は昇き入れないが、伝統の山笠の代わりにと、別の飾り山を天神まで昇いて祭りをサポートしたこともある。時代は移り、今。山笠に貢献している人たちに台上がりしてもらっている。例年、台上がりの声がかかる福岡市議も、会派を超えて喜ばれている。</p>
14日	<p>追善山 各流とも、それぞれの流内を昇く流昇き 土居流はこの日に追善山。山笠に貢献した人、つまり地域に貢献した人をたたえる場。「祝い唄」を歌う。翌朝の追い山に備えて、しないところもある。流によっては、別の日にするところもある。それぞれの流の独自性を尊重しておこなわれているところが自治の精神であろう。</p>
15日	<p>追い山 1687（貞享4）年からの記録。旧暦で行われていた時代は、満月の下、榎田神社前の土居通りで待機。夜明けを待って神社境内へと入っていった。満月が西の空に沈み、東の空から太陽が昇り始める夜明け、いのちが輝き出す瞬間でのスタートだった。テレビ各局のライトに照らされっぱなしの現代では、おごそかな雰囲気はわかりにくくなり、観光ショー的でもある。かつては前の山笠が東長寺の清道を回ってから次の山笠が榎田神社に入っていた。前を走る山笠と一定の距離が開いたところで、次の山笠が神社境内へ入るという方式だった。それが、トラブル防止の策でもあった。ところが時計というものを博多っ子が手にして、5分開けてスタートという方式へと変わっていった。タイムレースとの「誤解」が広がった原因は、新聞社が作ったとあっていい。明治20年代から九州日報と福岡日日新聞がタイムを計測し記事にしている。 ※筆者所感 流ごと大切にすることが違い、山笠の重量の差や、台上りの人数に違いがあるなど、単純にタイムを比較しても意味がないし事故を招く。</p>

出典：筆者作成

④博多のぐりょんさん・女性の見ている山笠

山笠は、男中心の祭りである。女性が汗を流しているような場面は、陰に隠れて見えにくい。男中心の祭事で、「祭りの表舞台に参加しない女性の人権が無視されているのでは」との声も出ている。しかし、そんな誤解・短所にも、目を向けて、町づくりへと祭りを生かしていかなければなるまい。

博多に生まれ育った女性たちからは、山笠を評価する声を多く聞く。博多区上呉服町に暮らす池田節子さんは、「6月になると、女も男たちと一体。気持ちが騒ぎよります。祭りの間の直会のメニューをどげんすとか。直会当番のスケジュールの調整が始まります。私の町では、コロナ前までは一日の約50人ぶんを4万か5万円ほどを目安に作っていました。コロナの間は、集まることを避けて、仕出し屋さん注文することもありました。女性は、直会の準備がすむとテントの外に出ます。あと片付けは若手(祭りの若い男性)がしよります」と話す。

博多の女性は、祭りの表舞台に立つというより、いつでも商売の先頭に立つという役割が多いのだが、博多区須崎町の徳安和美さんは「若い時は、(法被姿の)だんな(夫)がよく見えた。しかし、子供が生まれてからは、子供たちが山笠で育てられていると考えるようになり、礼儀や作法なども含めて人間としての成長の場になっとなります」と話す。

「町・地域をあげて自然体の子育ての場になっている」との理解が、長く祭りを存続させてきたのである。

博多区奈良屋町に住む西頭こうこさんは、那珂川市などで生まれ育ち、結婚を機に博多の町で暮らすようになった。「男にとって山笠は楽しむことがある祭りやろう」と思っていたが「子供を育てるようになって、とっていい」と思うようになった。「近所のおじちゃん、おばちゃんから、いろんなことを教えてもらえるし」という。

福岡商工会議所の副会頭も務めた中洲の西川ともゑさんは「祭りは、住む人のコミュニケーションの場。それがなくなったら町は崩壊します。山笠があるけん、博多たいでしょうもん」と語る。

平成14(2002)年まで、山笠の詰所に立てられていた「不浄の者立ち入るべからず」の立て札が女性蔑視だと、一部の団体から撤廃を求められ、翌年に撤廃されたが、森弘子さんは、その著作『博多のくらし』の中で「山笠に出るダンナや子どもの締め込みを締めるところから、毎日の法被の洗濯。昔は洗濯機なんてないから、このことだけでも大変な作業。その上、山笠に出ている男が留守の間の商売、家の取り仕切り、直会の準備、全部、全部、博多の女は、ごく当たり前にやりこなしてきたのだ。そして、山笠に出ているダンナを見れば、かっこいいと思い、家の前を山笠が通れば、一心に勢い水をかけて、男たちを元気づける。だから男は女に頭があがらない」と、書いている。女性たちの声は「私たちやあ、不浄のもんやら思うとらんモン」と付け足す⁽¹⁾。

(3) 山笠も変容しているということを考慮しなければならない

博多山笠に、現代の高齢化社会の課題を解決へと導くヒントが隠されていると思う反面、山笠自体が変容しており、その見えにくくなりつつある原点を見つめ直すことも必要である。というのも、それぞれの町の山笠に参加しているのは、その町に住んでいる人というよりも、祭りのときにやってくる外部の人、という事例が目立つのである。町のトップである町総代が、遠く離れた土地に住んでいるという町の例もある。博多の中心部の都心過疎現象が進み、町の運営が難しくなっているという現実にも向き合わねばなるまい。ただ、祝祭をきっかけにした出会いが時空を超えた絆、オンライン時代の絆を育むという意義も大きい。

ベッドタウンという郊外の核家族の多い新興住宅地では、各地から、いろんな価値観・文化規範を持っている人が移り住んでおり一緒に、地域の課題と取り組むという時間は少ない傾向がある。住んでいる町を誇りに思ったり、集まって課題について語り合ったりする共通の目標がなかなかみつからない。その解決法は模索の段階だ。「人を集めることのできる魅力的なリーダーシップのある人間がいるときは、活気があるのに」などの声だけが残る。一方で、「女性が地域づくりの先頭に立ったほうがいいのに」との指摘は多いが、女性活躍という風土は根付いていない。

町で一緒に暮らすことは、けんか・対立もしつつ暮らしを支えあうということである。私が子供のころ暮らした中小路(現・博多区上呉服町の一部)という東西100^{メートル}ほどの町には、魚屋、八百屋、風呂屋、文具店、本屋、電気店、洋服店など、生活に必要なものは、町の中で売っていた。暮らしを支えあうという機能も町にあった。

現代は、町外にオフィスなどのある企業に勤め、町は寝るためのもので、周りの人の助けはなくても暮らせるというベッドタウン的傾向が強いが、定年後、第一線を退いた後は、地域からの孤立・孤独の不安がつきまとっている。高齢化・孤独な社会を乗り越えるためにも、住む人の共助の知恵を見つめ直すことは喫緊の課題であろう。それは、行政になんでも頼らず、自治の精神も生かさねばなるまい。

山笠の流の最高責任者である総務も務め、奈良屋公民館長も務めた西頭敬一郎さんは「町をつくる、ということは人をつくるということ。しかし、就職から転勤、さらに勤務先と住居が別という現代の博多にとって、難しい問題も多い」と、課題も指摘する。

長所を生かし、課題と向き合い、解決していくという姿勢が肝要なのである。

2. 福岡市の町づくりのために 山笠をどう生かすか

～市職員や公民館など地域と向き合うみなさんへ、自治の心意気を

(1) 「ハカタウツシ」

ここで、博多の暮らし・文化の伝統を生かしたコミュニティづくりへの期待効果を考えてみたい。

かつて、博多の山笠は、直方、前原、津屋崎、佐賀・浜崎など各地へ「ハカタウツシ」として伝播した。学ぶ意味、真似することが役立ったのである。近年は北海道でも博多山笠に学び、山笠を作り、過疎化が進む地域の活性化に取り組んでいる。博多は、古記録によると、京都の祇園祭を参考に木偶人形師の小堀家を博多に招き山笠を作ったとの説もある。それぞれの地域が、いいところを学び、生かしてきたのである。そこには地域と人と人との交流・絆がある。交流の機会・場こそが、人々を元気にするのである。「祭りには町の基本単位である家族の絆を生み出す力がある」とする研究者もいる。

福岡市という行政の場で働いている職員でも、博多区内で住んだことがほとんどなく、山笠を体験していないので、山笠など博多の暮らし・文化の活用法・奥深さをほとんどが理解していない、という現実がある。この暮らし・文化の知恵を、具体的に行政の側が、どう生かすのかは、これからの大きな課題であり、もっと職員に、山笠について向き合う機会を認め、行政の場に反映してもらうことも必要であろう。公助に頼らず、市民パワーの活用も併せて、である。校区担当の市職員と、市民がざっくばらんに楽しめる場を設けたらいい。

(2) 山笠に学ぶ6の知恵

山笠から、現代の町づくりの直接的、具体的なノウハウを捜すことは、さらに模索を続けなければなるまいが、そのポイントとして6つの柱をあげたい。

①集まるのが楽しい、語り合う、という風土を

町づくりの基本となるのが地域に住む人の結束である。ところが近年、企業に勤める人が中心となった町は、人と人をつなぐ地域づくりは、おろそかになっている。孤立・孤独な高齢者が多いのである。そうした現代の社会問題の解決・解消への努力はどうか。町の絆づくりには、危機感が源流にあるとされる。ふつう地震災害などへの対応から、町の人たちの連帯感が生まれるとされるが、高齢化社会の孤立・孤独も緊急課題と考えていい。そのためには、地域の人が、まず集まるのが楽しい、語り合いたい、という風土づくりから始めねばなるまい。これは、山笠・祝祭の原点でもあり、大いに役立てたい。

語り合う・楽しむという拠点として期待されるのが公民館・集会所などである。しかし、現状は、楽しみや、わくわく感はなかなか感じられない。酒食をともに夜まで気軽に楽しむという拠点になっていないからである。公民館などのエンタメ色を大いにアップしなけ

ればなるまい。公民館長の裁量しだいというところが大きい。「公民館を酒食の場にして、何かあつたらだれが責任をとるのか」という批判を受けて立つ行政サイド・議会の心意気・合意も必要だろう。こども食堂の運営法も参考になりそうだ。

参加者がよるこべる企画も必要だ。地域・住んでいる人に学び、それぞれの家族のファミリー・ヒストリー作りをサポートするのもよさそう。生きること・喜怒哀楽の人生を語り継ぐのもいいだろう。先祖が殿様とか、サムライがえらいのではなく、地域住民それぞれの先祖の人生・苦勞を記録・伝承することの大切さを確認しあうのである。

②暮らしている町を誇りにする文化・生活空間を

暮らしている町への帰属意識・誇りを、どう育むのか。地域のお世話をすることを誇りとできる時空の創出が課題である。町内会長や民生委員といった地域活動をけん引する仕事を遠慮する人が多いという傾向を打破するために、地域活動に汗を流したみなさんを顕彰する祝祭のような場を模索する必要がある。

山笠では、地域活動に貢献し、亡くなった人を、追善山のとき、山笠を揺すりつつ「祝いめでた」を歌って顕彰する。そのような心がけを生かす工夫が必要であろう。

山笠は、町・地域のお世話をしている人が、町総代・取締・赤手拭などの要職につく。そうした役職で汗を流した人は、山笠の台上りをするとかの晴れ舞台・顕彰の場がある。「地域のお世話をするみなさんを大切にしなさい」ということを教えてくれている。地域のために汗を流した人を耐える場を創出しなければならない。一方、現役を退いたものは、現役への口出しは避け、たずねられたことだけについてアドバイスするという考えも、大切な慣習であろう。

③山笠は健康ウォークだ みんなで楽しくウォークの検討を

山笠は、過当競争社会の中に生きる現代人の健康づくり・維持に効果的だ。競争社会・利益追求の会社人間が短時間・短期間でも異空間へ入り、リフレッシュできる意味は大きい。ストレスのたまる社会空間から一時的にでも隔離され無心に走り回るとするのは、現代の競争ストレス社会での隔離療法・カウンセリングにもつながる。仕事が一段落し、夕方からの一時間程度が祭りの場となっている山笠の知恵をどう生かすか。山笠文化は、精神的にも、肉体的にも、よくできた孤独に陥りがちな都市の人間の健康法である。

④山笠は町の総合力・個性の象徴 町に個性をつくろう

山笠は、流、それぞれの町の個性・文化・工芸の技などを評価し、競い合う。山笠の制作・できばえは、町の人材の総合力の象徴でもある。みなさんが暮らしている町、校区内で暮らしている町の人材・才能・技などの再発見が求められることでもある。そうしたみなさんを軸に、学ぶ場、楽しむ時間・空間を創出したい。

公民館は、そうした公的組織として期待が大きい。しかし、担当区域が広過ぎて町の高齢

者を生かす事業は、模索・試行錯誤の段階である。公民館には、子育て中の母親・子どもをサポートする子育てサロンや高齢者をサポートしようという高齢者サロンなど新たな取り組みも出ている。しかしまだ高齢者が活躍・期待される取り組み・体制までにはなっていない。高齢者は、かつて老害・見守られるもの、と言われた時代のままだに近い。地域の人材を発掘し、高齢者を、学び合いのできるセンターや公民館などへ招き、多くの人が集まって地域のことなどを学べる場にしていただく、という基本コンセプトを発展させねばなるまい。

⑤女性が商売の先頭に立つ 男は地域活動の時間・機会を増やそう

博多は、男が地域活動に意欲的で、商売・収入の基本については女性・ごりょんさんが軸となっていた商家が多い。子育ては、家族全員、従業員、町内の人…多くの人によって家業と一体化するようにして行われていた。終戦後、西欧文化がどっと入ってくるまでは、家事育児に専念せずに、女性が仕事の先頭に立つということは博多の日常であった。

山笠をはじめ神社や寺、などの行事・祭りが一年中続く博多にとって、男は、祭りなどの準備のために多くの「奉仕」「地域活動」が求められ、女性・ごりょんさんが商売を事実上取り仕切る例が多かったということは忘れ去られがちである。女性が先頭に立って仕事・商売にかかわるといって女性活躍社会が息づいていた。子育ては、一緒に働く従業員や祖父母と「協同」だった。女性が家事／育児にかなりの時間を割いていたというのは、戦後の限られた期間である。女性がリーダーシップを発揮し働く場合は、周りの理解とサポートが必要であるということも山笠は教えてくれる。

祭りの期間を中心に、商売を取り仕切ったごりょんさん・女性たちは、秋の放生会のときには着物を買求めた。博多の呉服屋の大半は、この放生会の前に着物が売れていた。祭りの期間などで店の商売を取り仕切ってきた、ごりょんさんの存在は大きかった。

なお、「若手」と呼ばれる若者は、山笠の詰所で直会の準備、煮炊き、法被の洗濯、あと片付け、子どもの世話なども体得していた。女性の仕事とされがちな家事育児などについても部分的ではあろうが学んでいたことは参考になる。

今日、女性が多い学校との連携が多い地域活動の一つである PTA 活動については、男性が、もっと参画できる時間を増やすべきである、との考えがある。山笠の暮らし文化と発想が似ているのである。企業の中には、勤務時間内での PTA 活動を認めているところもあるので、参考にしたい。

⑥国際交流-親善の証であり、もっと、もっと

山笠のように、アジアとの国際交流、他の地域との交流を大切にし、それぞれの文化、暮らしぶりを受け入れたい。福岡市の海外親善交流事業の先頭にも立つ山笠は、アメリカ、オーストラリア、ニュージーランド、中国なども訪問している。国際交流都市フクオカの象徴的存在である。一方、山笠の櫛田入りのときの境内の「清道旗」は、日本を訪れた朝鮮通信使行列が先頭にかかげていた旗で、異国文化・伝統を大切にするという心が息づいている。

かつては、現在の聖福寺一带は、交易にかかわる中国商人の居留地だったという歴史も見逃せない。写真6のように、みんな仲良く国際親善を、との現代へのメッセージと理解したい。ただ、写真7のように、戦前の日独伊・防共協定締結を祝うためにイタリアから親善使節団が福岡市を訪れたとき、特別に山笠を昇いたこともある。祭りは、権力に利用される、という危険もはらんでいることを肝に銘じたい。



写真6 昭和63年(1988年)オーストラリアの国際レジャー博覧会を訪問した山笠(筆者撮影)



写真7 昭和13年(1938)4月、日独伊防共協定締結を祝うイタリア使節団歓迎のために特別に櫛田入りが行われた(故太田誠一氏所蔵・筆者複写)

終わりに

以上は、九州で福岡市一極集中が進む高齢化社会の、よりよい暮らしを求めようとする視点からの町づくりの基本コンセプトである。昭和の博多山笠を追懐しながらの提言である。

博多の暮らしと山笠などの文化の中には、さまざまな「知恵」が息づいている。住んでい
る町で、祭りを健康に暮らす手立てとし、町を誇りにしているという「魅力」がある。そう
した共助・共楽の手立てを具体化するために、公民館も含めた行政サイドと、自治の考えに
立つ住民サイド、2つの視点から光を当てるプランを提案してみる。

提案① 時空を越えた みんなのコミュニケーションの場を地域につくろう

山笠の直会の場合などは、地域の老若がともに酒食などをともにし、コミュニケーションの
場となっている。現在は仮設テントの詰所である。難しい課題解決のためよりも、まず集ま
ると楽しいという空気感が重要と考えていいだろう。みんなで「祝うたあ」と語り合える時
空が広がる。女性たちも集まってきて、祭りをサポートしつつ絆を深めている。

また、現実に住んでいなくても、祭りのときに集まっているのをきっかけに絆づくりが
できている。オンライン時代の絆づくりである。祭りの時には、福岡にやってくる、とい
うサラリーマンもいる。月に一度、あちこちから参加者がやってきて町内の清掃などに取
り組んでいる町のケースもある。「祭りの時だけやってくる人も、祭りの準備、その他
で、がんばってくれており、ありがたい」と、博多松囃子・福神流の武田与一さんは、伝
統の祭りの存続・継承に欠かせない存在だと強調する。

日ごろから町と向き合うという心がけは大切だが、限られた期間の「絆」も重要になっ
ている。郊外の新興住宅開発地が、お互いが無縁となっている現実を考えたとき、時空を
超えて広がっている新しい時代の「町づくり」、地域のお役に立つ人生展開、であろう。
そこに住んでいなくても住民としての絆づくりになっているのは参考になる。

提案② 孤独・孤立を防ぐ手立てに

都市一極集中・高齢化社会、競争社会の中で、どう生きるのか。2023（令和5）年発表の
総務省統計によると、80歳以上は27万人増え1259万人。人口の10%を超えた。帰属して
いた会社などは、定年が60～65歳としても、100歳近くまで30年は、地域の人たちととも
に生きなければならない、会社ではなく、暮らしている地元で、生きる意味を見つけなけれ
ばならないという現代社会の課題を解決する手立てを模索することは、大きな意義がある。
現代社会の孤独・孤立の不安の解決策へのヒントさがしでもあろう。

山笠では、高齢者が長老などとして存在感を認められ、顕彰される場でもあるし、葬儀な
どを出した家の者は、祭りには出ない、という決まりも教えられる。一年間は、故人の供養
を最も優先しなさい、との教えも学ぶ。山笠は人間としての生き方を学ぶ場なのである。

夫婦共働きのため、子どもたちが通う PTA 活動にも消極的なケースが多くなっているという現実もある。高齢者が、学校と地域をつなぐ役割をするというのも、一つの考えであろう。地域のお役に立てる場をつくっていくのである。

提案③ 公助に頼り過ぎず自治の心を

町界・町名変更でそれぞれの町が東西に分断された土居流の各町は、行政の住居表示ではなく、旧町名単位で、町を復活。住居表示としての町は分断されても心は一つと、町を存続させた。行政にとって管理しやすい街区(ブロック)単位による住居表示と、暮らす人たちにとっての道路(街路・ストリート)方式による町の運営は「ずれ」があってもいいし、使い分けてもいいのである。

自分たちの町は、自分たちで活性化するという心がけを学びたい。コロナワクチンの接種など町内会など地元の住民組織が動かなくても行政からのサービスは拡充されているが、公助ばかりに頼らず、自分たちが暮らしている町の中で、楽しみ、支えあって生きるという精神をはぐくむことが必要であろう。

かつて明治新政府が「旧来の陋習」として山笠を禁止したように山笠は負の課題を指摘される場所もあった。しかし、忘れられがちになっている山笠の源流・生活に根差した土着の魅力に、もっともっと光を当てたい。生活文化の違いなどを認め合う心がけを見つめたい。

国勢調査によると、2050年、福岡都市圏への人口一極集中は、250万人になり九州の人口の4分の1を占めるとの予測が出ている。新時代の町づくりが喫緊の課題である。福岡市は、九州の一極集中の「受け皿」として人口増へとアクセルを踏み続ける施策を考えている。

進む高齢化社会の不安。大地震に世界的な疫病。人が集まって学び、それぞれの個性を生かし、生活・健康づくりなどに役立てるには「集まって楽しむ」という要素が肝要である。町づくりには、そんな山笠の原点が生きて、との考えに立って山笠行事への参画が求められるのではないかと。当然、博多祇園山笠振興会の協力も必要になる。

注釈：

- (1) 森弘子：『博多のくらし』海鳥社，2023年。

参考文献：

- 1) 『西日本新聞』，2024年1月7日朝刊一面
- 2) 高島福岡市長インタビュー記事『西日本新聞』2024年2月3日朝刊28面
- 3) 『「谷根千」から学ぶ地域ブランドの作り方』，福岡アジア都市研究所報告書，2023年
- 4) 日野仁彦：『町づくり市民夢日記』徳間書店，1988年
- 5) 西日本新聞社・福岡市博物館編：『博多祇園山笠振興会50年史』西日本新聞社，2004年
- 6) 博多祇園山笠振興会：『博多祇園山笠大全』，2013年
- 7) 蓑原敬：『街づくりの変革』学芸出版社，1998年

市民まちづくり研究員 令和5年度の歩み

1 市民まちづくり研究員受入事業

公益財団法人福岡アジア都市研究所（以下「研究所」）は、各界各層の協力と連携のもと都市経営の視点と長期的展望に立った都市政策を研究する機関であり、「都市政策に関する調査研究」「都市政策に関する情報の収集、分析、加工、発信」「人材育成」「アジアとのネットワーク形成」を柱に事業を進めています。

この市民まちづくり研究員受入事業は、市民の方々に、自主的な立場での研究を通して、まちづくりへの認識を深め、また、交流の輪を広げることにより、まちづくりのリーダーとなっていただくことを目的としています。

対象者は、福岡市またはその近郊にお住まいの方もしくは福岡市内に通勤・通学にしている満18歳以上の方で、月1回の定例研究会に参加できる方です。毎年5月に募集を行い、5～6名程度の方々に、身近なまちづくりについて研究いただいています。

令和5年度は、「福岡の心地よい空間づくり～食や景観から生まれるにぎわいとやすらぎ～」について研究していただきました。

2 活動実績

令和5年

- | | | |
|---------------|--------------------|--|
| 5月8日 | 募集開始 | |
| 6月13日
～19日 | 面接選考 | |
| 7月4日 | 委嘱状交付式
第1回定例研究会 | <ul style="list-style-type: none">・委嘱状交付・研究員自己紹介・趣旨説明・テーマ説明（各研究員より）・事業概要説明・都市政策資料室の説明 |
| 8月16日 | 第2回定例研究会 | <ul style="list-style-type: none">・研究計画書発表及び意見交換 |
| 9月13日 | 第3回定例研究会 | <ul style="list-style-type: none">・報告書の目次と骨子の素案発表及び意見交換 |
| 10月11日 | 第4回定例研究会 | <ul style="list-style-type: none">・調査、研究の進捗状況報告及び意見交換 |
| 11月22日 | 第5回定例研究会 | <ul style="list-style-type: none">・中間報告会用パワポ資料による発表
及び意見交換 |
| 11月27日 | 中間報告会 | <ul style="list-style-type: none">・URC 会議室 |
| 12月15日 | 第6回定例研究会 | <ul style="list-style-type: none">・報告書の概要説明及び意見交換 |

令和6年

- | | | |
|-------|----------------|--|
| 1月22日 | 第7回定例研究会 | <ul style="list-style-type: none">・報告書の発表及び意見交換 |
| 2月15日 | 第8回定例研究会 | <ul style="list-style-type: none">・報告書の内容説明及び意見交換 |
| 3月7日 | 第9回定例研究会 | <ul style="list-style-type: none">・研究成果報告会用パワポ資料による発表
及び意見交換 |
| 3月15日 | 研究成果発表会
修了式 | <ul style="list-style-type: none">・アクロス福岡 608 会議室 |

◆令和5年7月4日 委嘱状交付



◆令和5年7月4日 第1回定例研究会



◆令和5年11月27日 中間報告会(URC 会議室に於いて)



◆令和5年11月27日 中間報告会(URC 会議室に於いて)



◆令和6年3月15日 研究成果発表会(アクロス福岡 608 会議室)



◆令和6年3月15日 研究成果発表会(アクロス福岡 608 会議室)



◆令和6年3月15日 修了式(アクロス福岡 608 会議室)



令和 5 年度 市民まちづくり研究員研究報告書
『福岡の心地よい空間づくり』
～食や景観から生まれるにぎわいとやすらぎ～

令和 6(2024)年 3 月 発行



公益財団法人
福岡アジア都市研究所

〒812-0011 福岡市博多区博多駅前 2 丁目 8-1

Tel: 092-710-6431 Fax: 092-710-6433

Mail: info@urc.or.jp URL: <https://urc.or.jp/>
